

Futaba

SkyLeaf
Classic Jr.

スカイリーフ・クラシック Jr

小型電動RCプレーン



組立説明書

1M23Z06403

このたびは スカイリーフ RC プレーンをお買い上げいただきまして
誠にありがとうございます。

ご使用前に、この組立説明書をお読みのうえ、正しく組立て安全にお楽しみください。
また、お読みになられたあとも大切に保管してください。

⚠ 危険

❗ 組立について

この製品は完成機ではありません。お客様自身で正確に組み立て、自己の責任にて安全にお楽しみください。組立不良による事故に関しては弊社は一切責任をおいしません。

❗ 飛行について

ラジコン飛行機をはじめ組立、飛行させる方は、かならず経験者の指導を受けてください。未体験の方がひとりで組立、飛行するのは大変危険です。未習熟の方の飛行中の事故に関しては弊社は一切責任をおいしません。またこの飛行機は、室内機やパークプレーンではありません。高速で広範囲を飛行しますので、広い安全な屋外で飛行してください。

❗ 機体の強度について

この飛行機はやわらかい PP 素材を使用し、極力軽量化しています。そのため機体強度は最低限となっています。機体を強く握ったり、ねじったり、うえにものに乗せたりすると変形したり破損することがあります。機体の取扱いには十分な注意が必要です。

✂ 飛行のために必要な物

このセットは、飛行機の半完成キットです。飛行するためには RC 送受信機・RC 飛行機用モーター・バッテリー・プロペラや充電器などが別に必要です。また組立には接着剤や工具が必要です。この説明書にしたがってそろえる必要があります。

✂ 機体の精度について

この飛行機はやわらかい PP 素材の半完成キットのため、若干の寸法誤差があります。組み立てには多少の加工や調整が必要になります。また、PP 素材にカラーリングを印刷していますので、強くこするとカラーリングが薄くなってくる場合があります。

用途、改造等に関するご注意

1. 模型用以外に使用しないで下さい。

本説明書に記載されている製品は、用途が模型用に限定されております。

2. 改造、調整、部品交換した場合のご注意

本製品を弊社以外で改造、パーツ交換などの手が加えられた場合、一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。




- 本書の内容の一部または全部を無断で転載しないでください。
- 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容は万全を期して作成していますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。
- お客様が機器を使用した結果につきましては、責任を負いかねることがございますのでご了承下さい。

安全にお使いいただくために

いつも安全に製品をお使いいただくために、以下の点にご注意ください。

表示の意味








本書の中で次の表示がある部分は、安全上で特に注意する必要のある内容を示しています。

表示	意味
 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される場合。
 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。または、軽傷、物的損害が発生する可能性が高い場合。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が重傷を負う可能性は少ないが、傷害を負う危険が想定される場合。ならびに物的損害のみの発生が想定される場合。




図記号：  ; 禁止事項  ; 必ず実行する事項

組立時の注意
















危険





-  組立説明書にしたがって正確に組み立てる。
 - 組立不良や改造をすると空中分解や墜落する危険性があります。
-  重心位置は指定の範囲内にする。
 - オモリなど使用して必ず指定の範囲内にしてください。指定範囲をはずれると不安定になり墜落します。
-  各舵の動作方向を十分に確認する。
 - 舵の動作方向を間違えると操作不能で墜落します。
-  モーター・プロペラ・バッテリーは指定の範囲内のものを使用する。
 - 指定外のものを使用すると操縦不能や空中分解で墜落します。
-  機体のねじれや曲がりは修正する。
 - ねじれたり曲がったりしたまま飛行すると操縦不能で墜落します。
-  リンケージは軽くスムーズにひっかかりのないようにする。
 - リンケージが渋かったりひっかかりたりしたまま飛行すると操縦不能で墜落します。
-  エンジン搭載しない。
 - この機体の動力はモーター専用です。エンジンを搭載すると振動などにより破損・墜落します。

警告

-  小さなお子様のいる場所での組立はしない。
 - 小さな部品やビニール袋などをくちにいれる危険性があります。
-  換気の悪い場所で接着剤や洗浄剤を使用しない。
 - 中毒になる危険性があります。
-  カッターやドリル、キリ、ニッパー、はんだコテなどを使用する場合は、けがやヤケドに十分に注意する。
 - 組立には工具が必要です。危険なものもありますので十分注意してください。

⚠ 危険



-  周囲の電波の影響により電波が届かなくなる場合があります。ご使用前の動作テストや使用中にこのような状況がある場合は使用を中止する。
-  操作中、送信機を他の送信機や携帯電話等の無線装置に接触させたり近づけたりしない。
■誤動作の原因となります。
-  雨の日、風の強いときや夜間は絶対に飛行させない。
■機体内部に水が入り空中分解したり、操縦不能となったり、見失ったりして墜落します。
-  フックバンドを首にかけたままで、モーターのスタート操作をしない。
■フックバンドが回転するプロペラへ吸い込まれると大ケガとなります。
-  疲れているとき、病気のとき、酔っぱらっているようなときは飛行させない。
■集中力を欠いたり、正常な判断ができないため思わぬ操作ミスをおかして墜落します。
-  次のような場所では飛行させない。
 - ・人の近くや人の上空、屋内
 - ・法律、条令で飛行が禁止されている場所
 - ・家屋、学校、病院、公園などの人の集まる場所の近く
 - ・高圧線、高い建造物または通信施設の近く■電波の混信や障害物などにより墜落したり、万一、プロポや機体の故障により墜落した場合、人命を奪ったり、家屋等の損傷をひきおこします。
-  安全のため、常に機体が視認できる状態で飛行する。
■建物等の大きな障害物の背後への飛行は見えないばかりでなく、通信品質も低下し機体のコントロールができなくなる恐れがあります。
-  飛行前には必ず機体の点検を実行する。
■機体、プロポ等のどこかに一つでも異常があれば墜落します。
*毎回飛行前に、機体各部の点検をおこなってください。各舵を動作させてみて、各舵が追従動作することを確認します。追従動作しない場合や異常な動作をする場合は飛行しないでください。
-  安全上、必ずフェイルセーフ機能の設定を行なう。
■スロットルのフェイルセーフ設定は通常の場合最スローまたはモーターカットになるように設定します。また、状況に合わせて安全な位置に設定してください。正しく電波を受信できなくなった場合に、フルハイで墜落すると大変危険です。
-  使用中、使用直後には、モーター、モーターコントローラー、バッテリー等には触れない。
■高温になっているためヤケドします。
-  <電源スイッチを入れるとき>
送信機のスロットルスティックを最スローの状態とした後、
 1. 送信機の電源スイッチを入れてから
 2. 受信機側の電源スイッチを入れる
-  <電源スイッチを切るとき>
モーターを停止させた後、
 1. 受信機側の電源スイッチを切ってから
 2. 送信機の電源スイッチを切る■操作の順番を逆にすると、不意にプロペラが回転し、ケガをします。
*最スロー：モーターがストップする方向。
-  機体やプロポの調整を行うときは、必ず、モーター配線ははずして行う。
■不意にプロペラが回転した場合ケガをします。
-  急降下などで機体のスピードを上げすぎない。
■高速になりすぎるとフラッターで機体が破損し墜落します。
-  高速時に急なエレベーター操作をしない。
■失速して操縦不能になります。また、過度のGがかかり空中分解して墜落します。

-  過度の低速状態にしない。
■失速して操縦不能になり墜落します。
-  人や建物・自動車に向かって飛行しない。
■激突して死亡や大ケガ、器物破損のおそれがあります。
-  回転中のプロペラの前方や側面に、手や体を置かない。
■プロペラが破損した場合、死亡や大ケガ、器物破損のおそれがあります。
-  プロペラの回転面に、手や体を置かない。
■プロペラに触れた場合、死亡や大ケガのおそれがあります。






保管・廃棄時の注意

警告

-  機体・バッテリー等を幼児の手の届く所に放置しない。
■触って作動させたり、電池をなめたりすると、ケガをしたり、化学物質による被害を受けます。
-  機体・バッテリーを火の中に投入したり、加熱したりしない。また、分解したり、改造したりしない。
■破裂、異常発熱、漏液、有毒ガス等により、ケガ、ヤケド、失明等をします。





注意

-  機体は次のような場所に保管しない。
 - ・極端に暑いところ (30℃以上)、寒いところ (-10℃以下)。
 - ・直射日光があたる場所。
 - ・湿気の多い場所。
 - ・振動の多い場所。
 - ・ほこりの多い場所。
 - ・蒸気や熱があたる場所。■上記のようなところに保管すると、変形や故障の原因となります。
-  長期間使用しない場合は、バッテリーを送信機や機体から取り出して、湿気の少ない場所に保管する。
■そのまま放置すると、バッテリーの漏液により、機体の性能や寿命を低下させます。
-  機体の上にものを乗せたり、ストレスのかかる状態で保管しない。
■この飛行機はやわらかいPP素材で作られています。上にものを乗せたり、ストレスがかかると、変形したりネジレが発生して操縦不能になります。

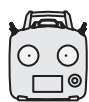


その他の注意

注意

-  燃料、廃油、排気等を機体につけない。
■機体材料が侵され、破損します。
-  モーター、モーターコントローラー、バッテリーは、必ず指定範囲内の組み合わせで使用する。
■指定範囲外の組み合わせにより発生した損害等につきましては、当社では責任を負いません。たとえば指定より大きなモーターを搭載すると、機体バランスが損なわれ、不安定になったり、過速度により空中分解したりします。必ず取扱説明書に記載されている範囲内のものを使用してください。
- この飛行機の材料は可燃物が多く使用されています。火災には十分ご注意ください。
 ■飛行時以外は必ずバッテリーをはずし、火気のないところに保管してください。
- ラジコン保険に加入する。
 ■ラジコン保険の加入申し込みはラジコン操縦士登録代行店に問い合わせてください。

✂️ 1 キットのほかに必要なもの

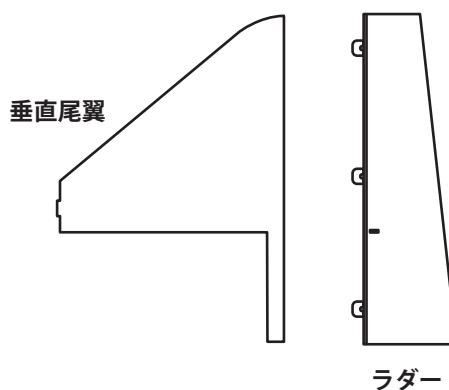
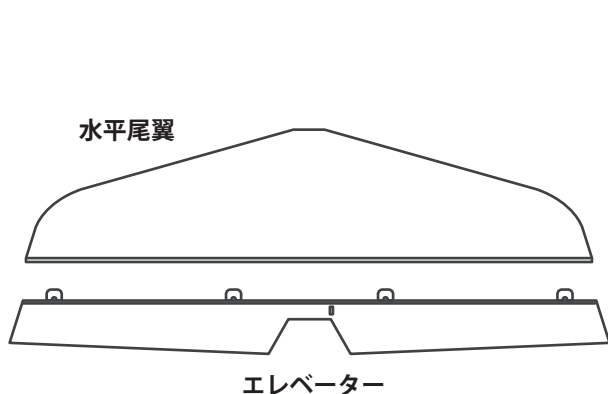
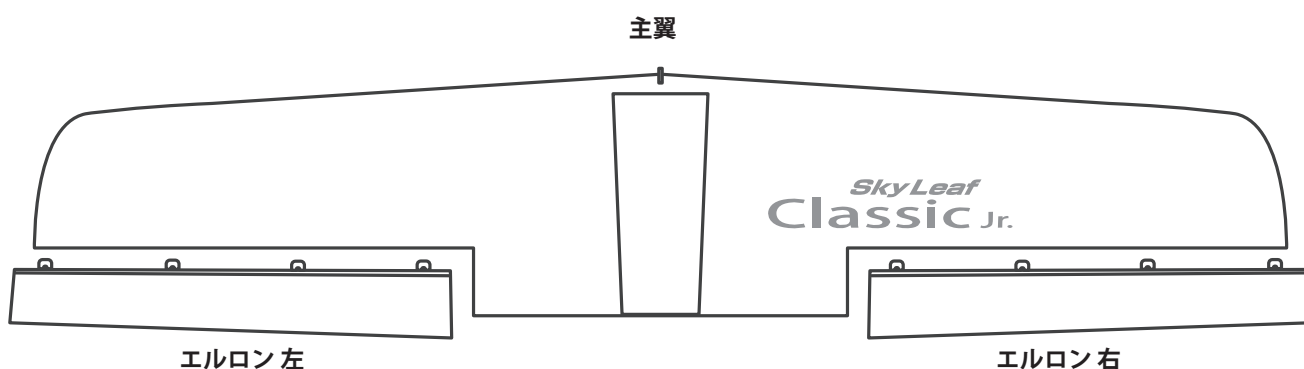
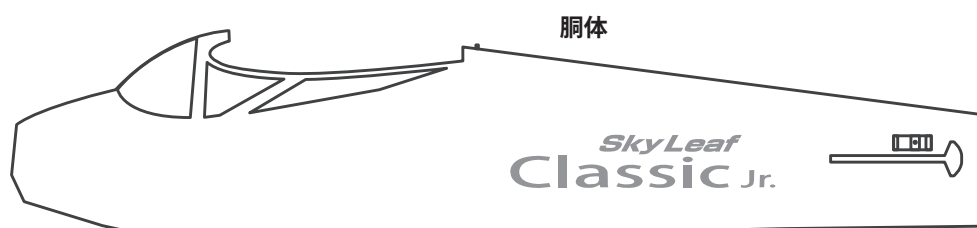


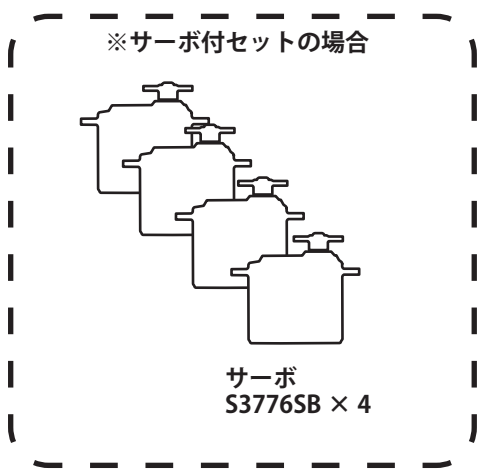
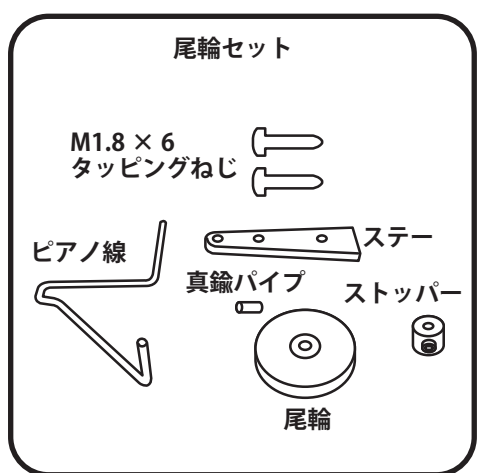
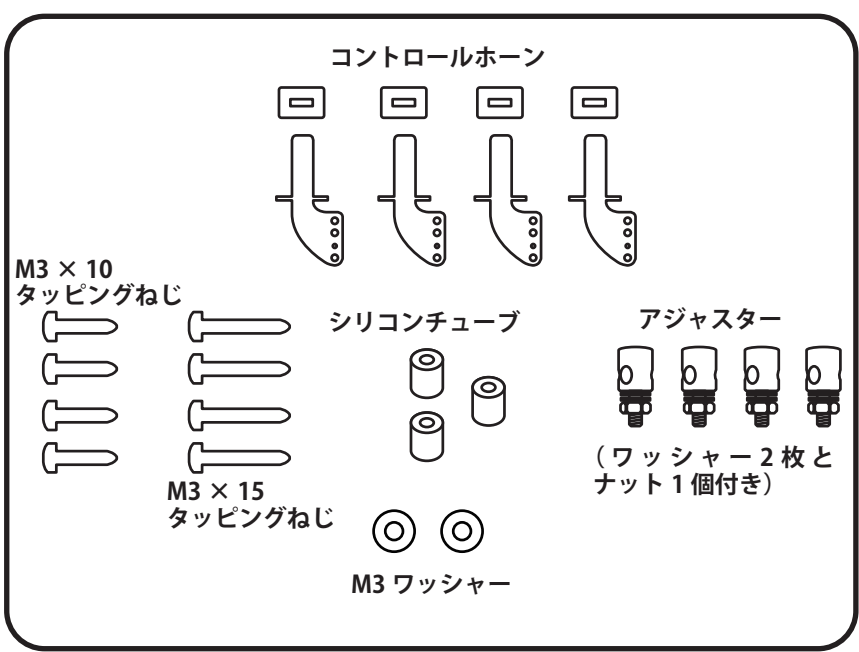
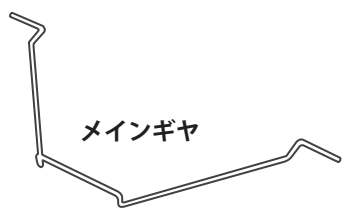
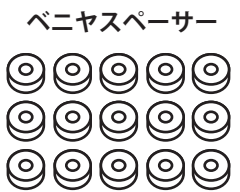
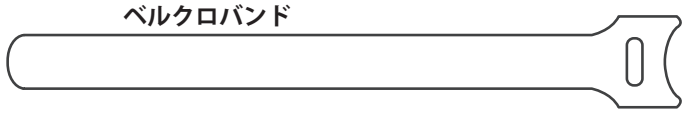
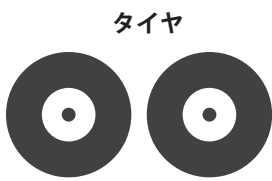
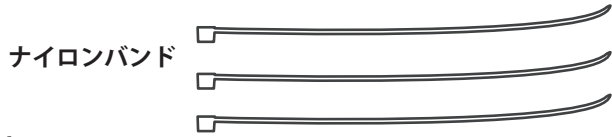
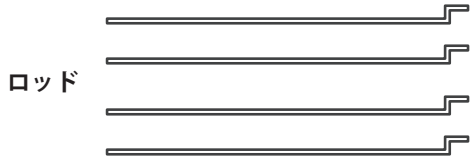
- 4チャンネル以上の空用送信機 / 受信機 (Futaba 6K、10J、12K、16IZ、18SZ、18MZ、32MZ などの T/R セット)
- (サーボなしセットの場合はマイクロ・サーボ 4 個)
Futaba S3776SB など
(21.8 × 11.0 × 21.9 mm / 10.0 g 前後のもの)
- サーボ用延長コード
100 mm × 5 本、400 mm × 2 本
(サーボのケーブル長が 200 mm の場合)
- 動力モーター (Futaba FMA-2929 KV1150 相当)
- モーターコントローラー (Futaba MC930A)
- 動力用リチウムポリマーバッテリー
(3 セル ~ 1,500 mAh)
- リチウムポリマー用充電器
- プロペラ (APC 10×3.8SF、APC 10×4.7SF)



- カッター
- ニッパー
- ラジオペンチ
- ハサミ
- プラスドライバー
- 六角ドライバー
- キリ
- ドリル
- テープ
- 瞬間接着剤
- 瞬間接着剤用促進剤
- ネジロック
- マジックペン
- 金ヤスリ
- サンドペーパー など

✂️ 2 キットに付属しているもの



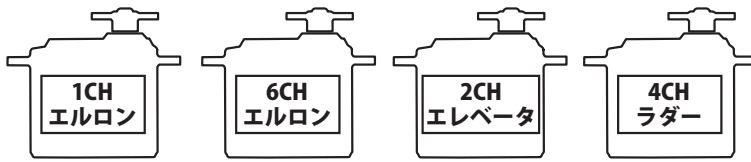


※ビス・ナット・ワッシャー類は余分に入っている場合があります。
※パーツは変更される場合があります。

3 S.BUS システムを使用する場合 (Futaba T10J 使用の例)

受信機 R3001SB を使用する場合など、S.BUS システムを使用する場合あらかじめサーボにチャンネルを記憶させる必要があります。T10J を使用する例を説明します。S.BUS を使用しない場合はこのページは不要です。

1. S.BUS サーボに名前をつけます。



ラベルシールなどに名前を書いて各サーボに貼ります。

2. T10J の [SBUS セッテイ] 画面をよびだします。

①電源 ON ②-キーを長押し

③ JOG キーを右に動かしてメニュー 2 ページに

メニュー	1 2 3
▶ テレメトリー	▶ エルロン→ラダー
▶ センサー	▶ Vテール
▶ モデルトランス	▶ ジャイロセンス
▶ トレーナー	▶ エレボト
▶ ディファレンス	▶ THR→ニードル
▶ SBUS セッテイ	

④ SBUS セッテイにカーソルを置き JOG キーを押す

S.BUS SX
MODE IN

PLEASE DO NOT YET CONNECT A SERVO

⑤ [MODE IN] の表示から JOG キー長押しで下記画面に

S.BUS SX (NO LINK)
READ

3. T10J に「1CH エルロン」サーボとバッテリーを接続しチャンネルを設定

受信機用バッテリー

Futaba FR2F1800

三ノハブ

1CH エルロン

T10J 裏面

S.BUS SX 1 2
ID= XXX-XXXX
▶ READ ▶ WRITE ▶ RESET
CHAN ▶ 1 ◀ DEAD ▶ 0.36
REVE ▶ NORM
NEUT ▶ 0.00
EPA ▶ 100.0 (L / R) 100.0

- ① まず「1CH エルロン」と名前を付けたサーボを左図のように接続します。
- ② 「READ」にカーソルがある状態で JOG キーを長押しします。
- ③ 「READ」を選択して JOG キーを長押しします。
- ④ 「CHAN」の数値を選択して+-キーで「1」にします。
- ⑤ 「WRITE」を選択して JOG キーを長押しします。
- ⑥ これでこのサーボを S.BUS ポートに接続すると 1CH の動作をするようになりました。
- ⑦ T10J の電源を OFF します。

4. 同じ手順で各サーボにラベルに書かれたチャンネルを設定します。



これで各サーボにラベルに書かれたチャンネルが記憶されました。あとはラベルに従ってサーボを搭載します。

4 Futaba MC930A と R3001SB を使用する場合

受信機 R3001SB を使用する場合 R3001SB は初期設定で 3CH 出力（ESC 用）がありません。
 そのままでは MC930A（通常の ESC）が使用できません。次の手順で CH 出力モードを切替えます。R3001SB を
 使用しない場合はこのページは不要です。

CH 出力モード一覧表

	モード A	モード B
3/S.BUS	3 CH	S.BUS
赤色 LED 点滅回数	1 回	2 回

こちらに変更
します

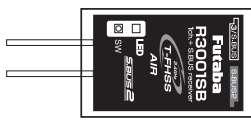
初期設定

● CH 出力モードをモード A へ変更して 3CH 出力を出します。

CH 出力モード切替え方法



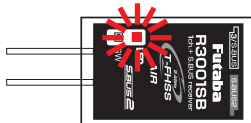
●送信機は OFF



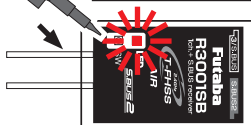
● R3001SB を ON

BATT 4.8 ~ 7.4 V

●赤点灯



● SW を 5 秒以上押す

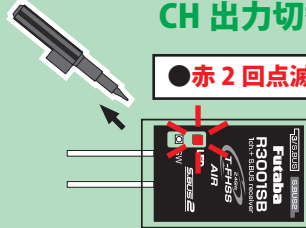


●赤緑になったらはなす



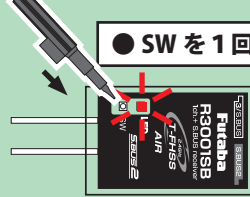
CH 出力切替モード

●赤 2 回点滅はモード B を示します。



● 1 回押すたびにモード
が変わります。

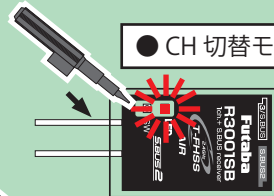
● SW を 1 回押して赤 1 回点滅へ



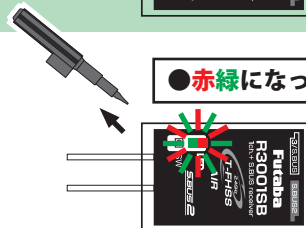
●赤 1 回点滅はモード A
を示します。

● CH 切替モードから脱出するには

● SW を 2 秒以上押す



●赤緑になったらはなす



●受信機電源を OFF

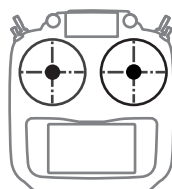
●これでモード A になり 3CH 出力が使用
できます。



- R3001SB の 3/S.BUS に MC930A を接続
- 各舵は S.BUS2 サーボを CH 設定して S.BUS2 へハブでまとめて接続します。

●送信機の設定

- スロットル (3CH) →リバーズ
- スロットルのレート (EPA・AFR・D/R・ATV) → 100%
- スロットル・トリム → 0%

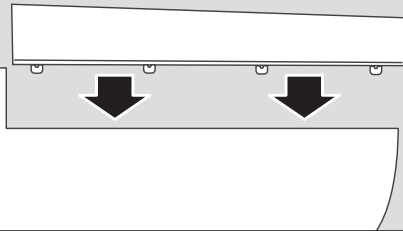


⚠ GYA460 を S.BUS2 にて使用する場合は、テレメトリーセンサーを使用しないでください。誤動作が起きることがあります。

5 主翼の製作

1

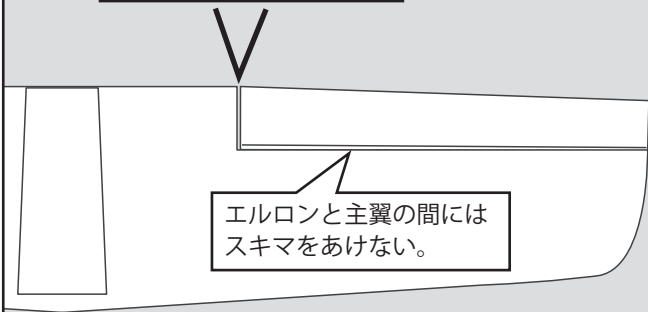
- ヒンジがミゾに入るように**主翼にエルロン**を差込みます。
- 注!** デザインをみて主翼とエルロンの**表裏**を間違えないように注意してください。



注! ヒンジは仮組されているだけで接着されていません。必ず接着してください。

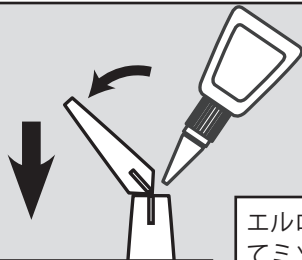
2

ここにスキマをあけます。



3

- 主翼にさしこんだヒンジ4カ所に瞬間接着剤を流します。エルロンを動かしてヒンジのミゾに確実に流し込みます。



エルロンと主翼の間にスキマが出ないように軽く押しつけます。

エルロンを動かしてミゾが見えるようにします。

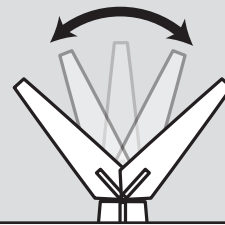
主翼



瞬間接着剤は発砲素材を溶かすものがあります。必要以上に内部まで流し込まないように注意してください。
■内部発砲素材が溶解すると空中分解の危険性があります。

4

- 接着剤乾燥後にエルロンを手で可動させます。はじめは動きがしぶいですが数回上下させるとスムーズに可動するようになります。エルロンがぬけてしまう事のないように、しっかりチェックしてください。

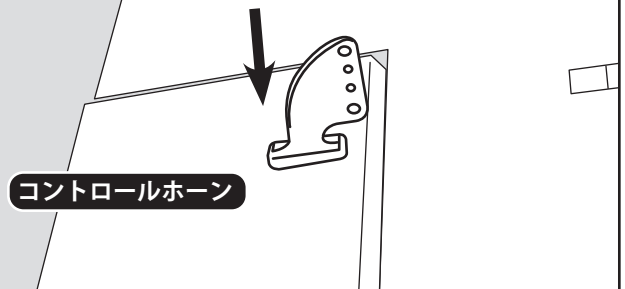


数回可動させる

- 同じ作業で主翼に左右のエルロンを取付けます。

5

- 左右のエルロン下面に**コントロールホーン**を差込みます。

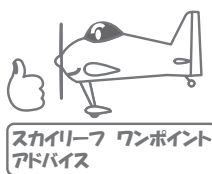


6

- コントロールホーンをエルロンに瞬間接着剤流し込み固定します。

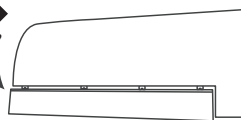


この部品はエルロンには使用しません。(エレベーター・ラダーは使用します。)



×

スキマ



○

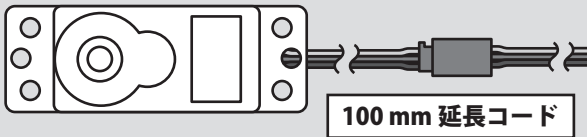
ピッタリ!



動舵のスキマをなくすとキレイのいいフライトができるよ!

7

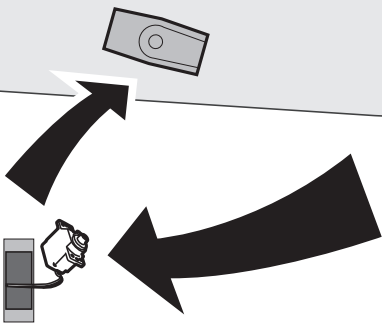
●エルロンに使用するサーボ2個に100 mmの延長コードをつけます。



●S.BUSチャンネル設定した場合
 左翼に1CH エルロンサーボ
 右翼に6CH エルロンサーボを使用します。

8

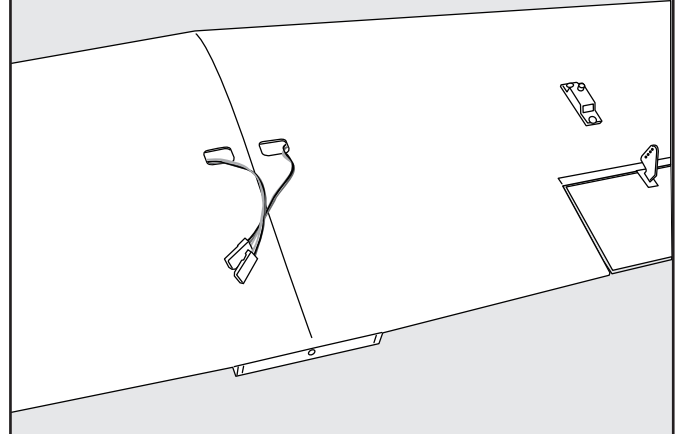
●エルロンサーボの穴をガイドに沿って切り抜きます。



●主翼内部にエルロンサーボの配線を通します。

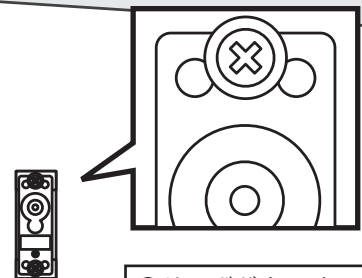
9

●左右のエルロンサーボのコードを主翼オモテ面中央部の配線出口から出します。

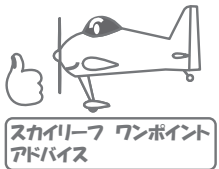


10

●サーボマウントにキリで下穴をあけて、サーボに付属しているタッピングビス2本でサーボをとりつけます。

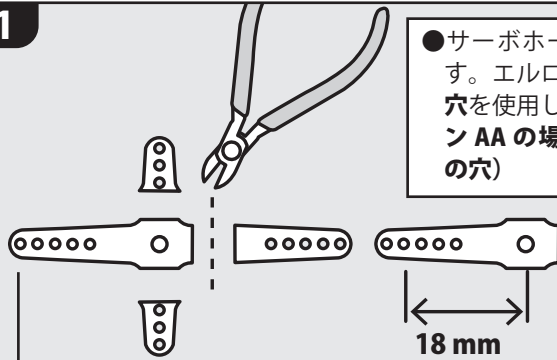


●サーボがきつくて入らない場合はサーボマウントを少しけずって拡げてください。



エルロン配線が通りにくいときは糸の先にオモリをつけて通し、配線をしばってひっぱり通すと良いよ。

11

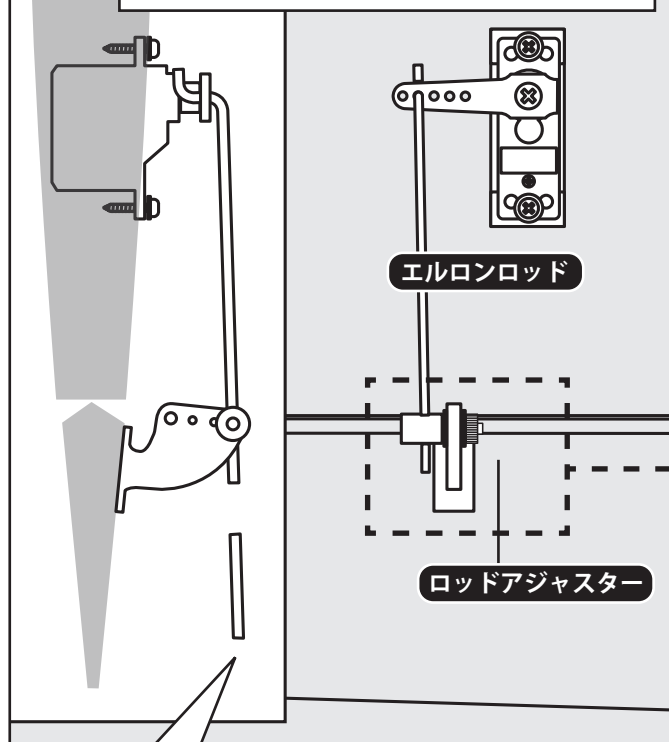


●サーボホーンの不要部分をカットします。エルロンはセンターから18mmの穴を使用します。(S3776SB付属のホーンAAの場合長い足の外側から2番目の穴)

S3776SB 付属のホーン AA の場合外側から 2 番目の穴

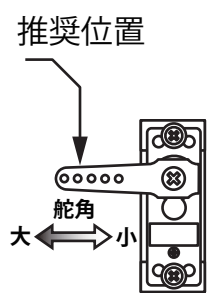
12

●サーボを受信機につないでプロポの電源をいれニュートラルにします。図のようにリンケージしてサーボのニュートラルでエルロンがまっすぐになるようにロッドアジャスターで長さを調整してください。

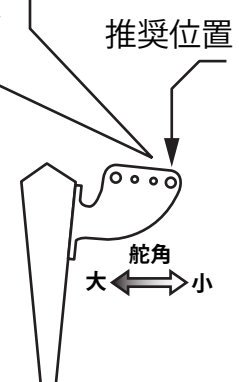


ロッドが長いので余分な部分はペンチなどでカットします。

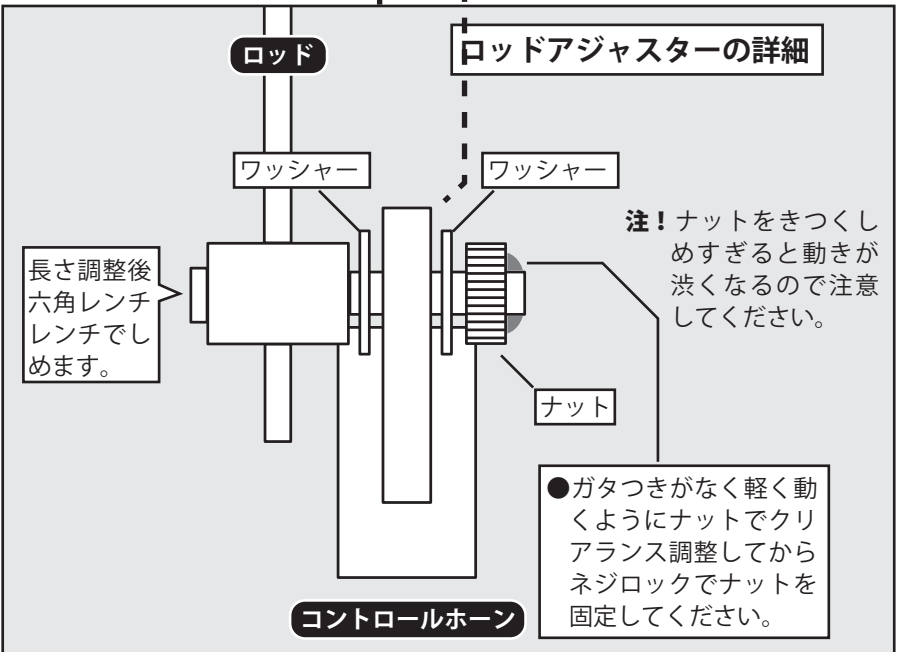
●フライトスタイルに合わせて調整してください。ただし舵の動く範囲をこえて大きく動かそうとするとサーボに負荷がかかって破損する可能性がありますので注意してください。



ロッドアジャスターがピッタリ入るまで穴を広げます。
!穴が大きすぎるとガタがでるので注意



ロッドアジャスターの詳細



長さ調整後六角レンチでしめます。

注! ナットをきつくしめすぎると動きが渋くなるので注意してください。

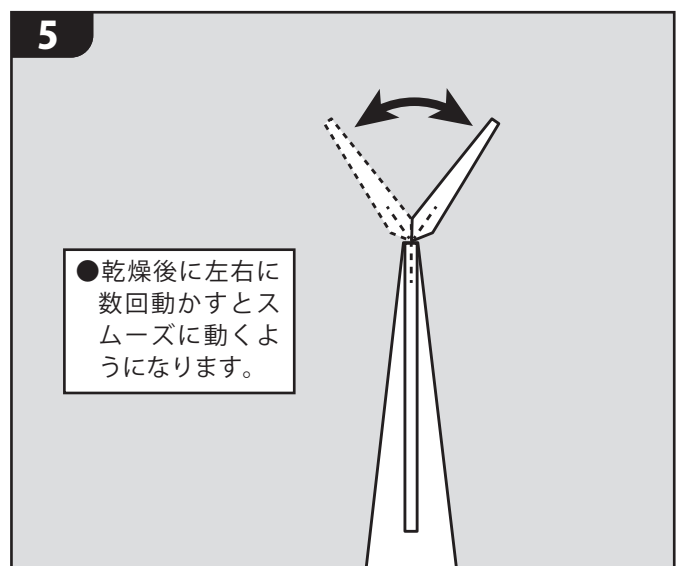
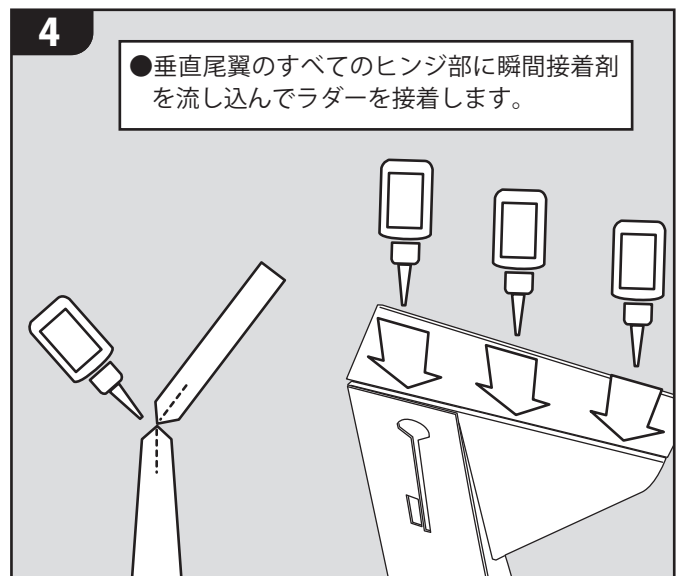
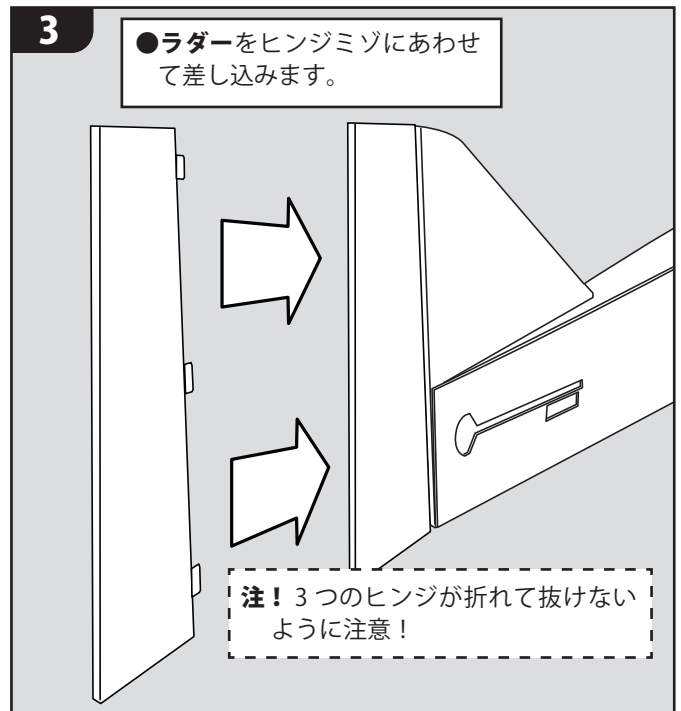
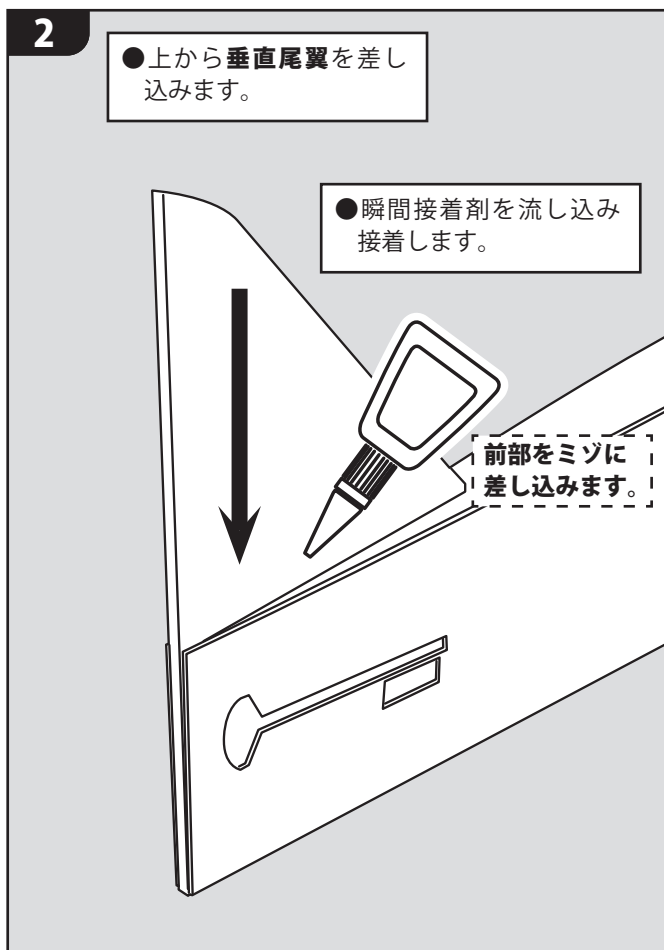
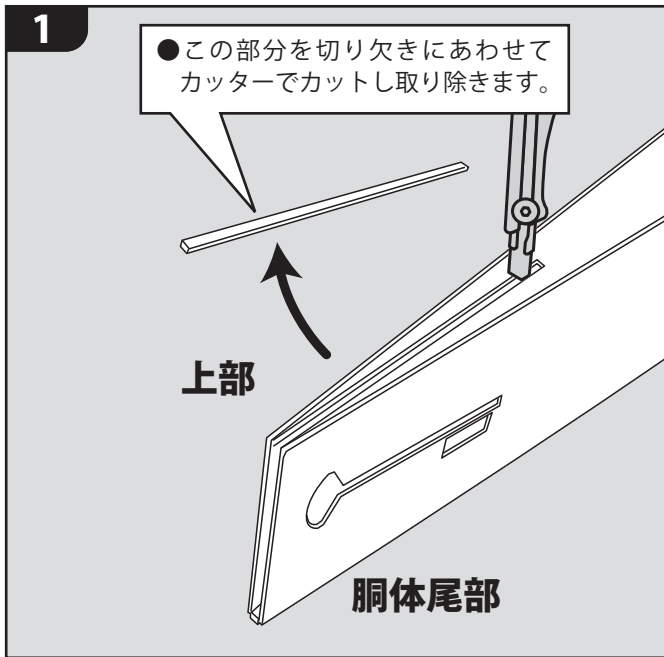
●ガタつきがなく軽く動くようにナットでクリアランス調整してからネジロックでナットを固定してください。

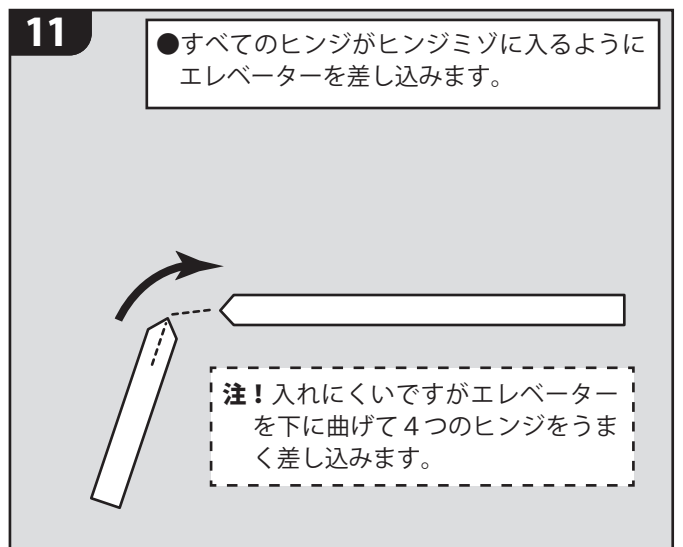
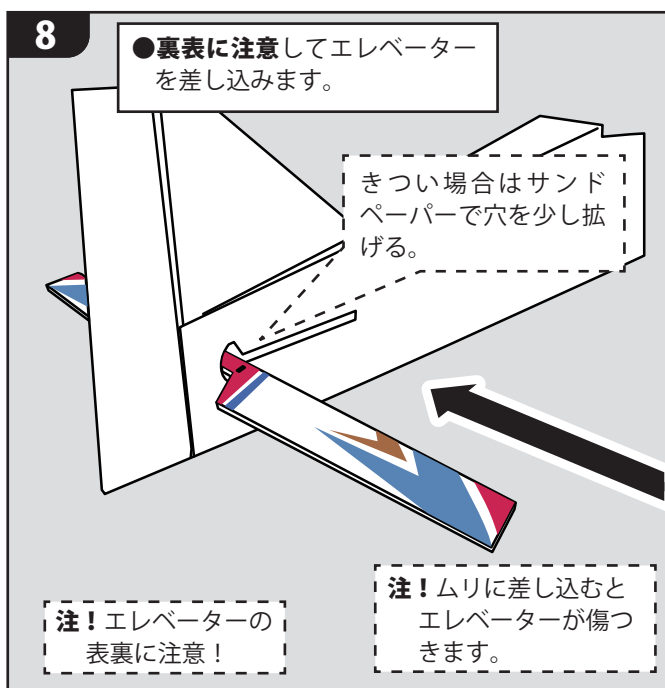
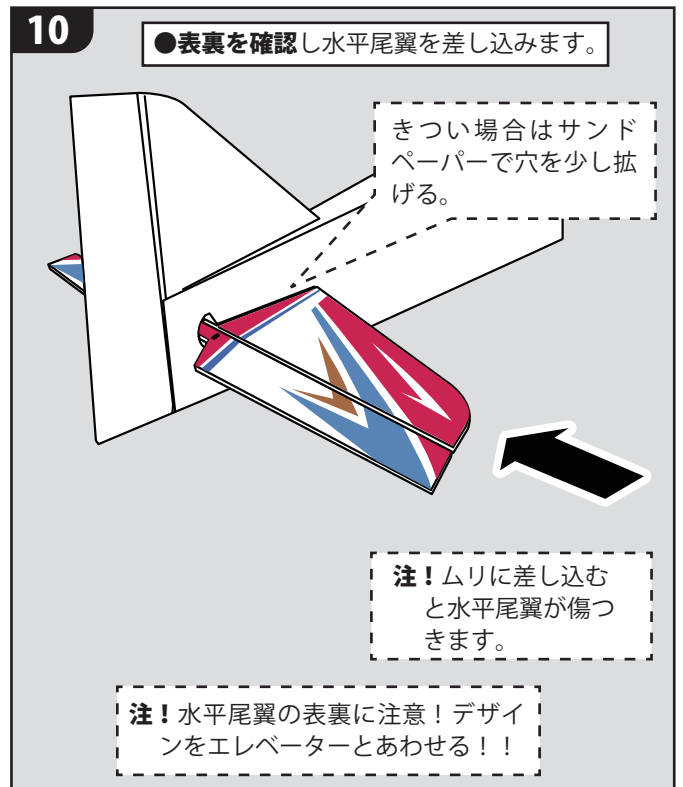
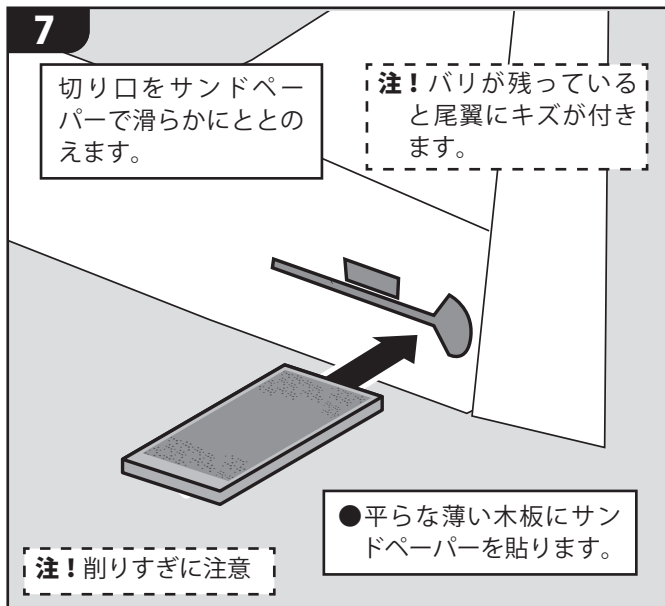
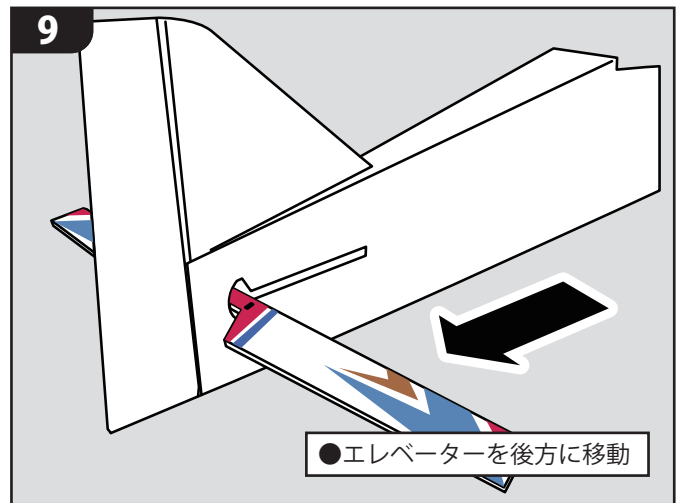
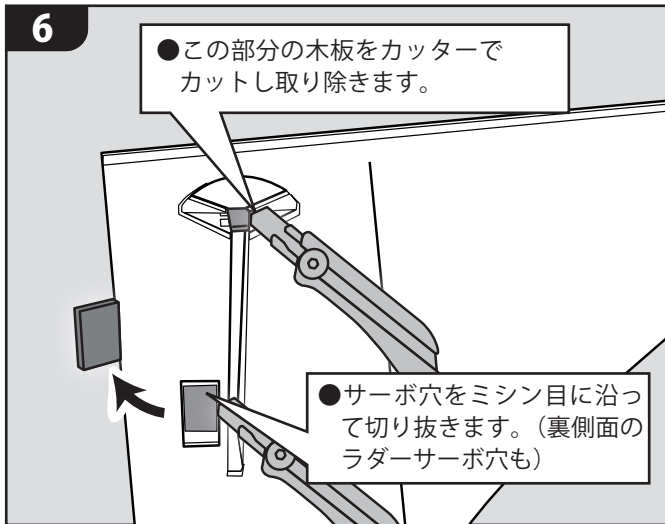
コントロールホーン

リンケージはかるくスムーズに!! 渋いと舵が残ります! 飛びません!

スカイリーフ ワンポイントアドバイス

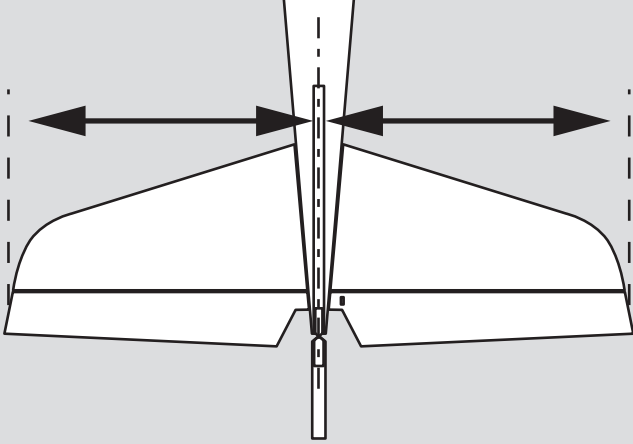
6 尾翼の製作





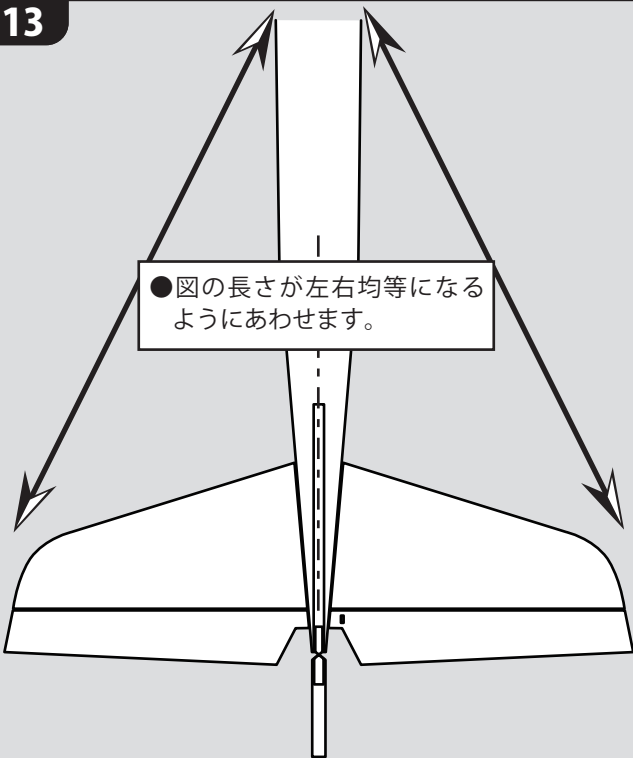
12

●水平尾翼の長さが左右均等になるようにあわせませす。



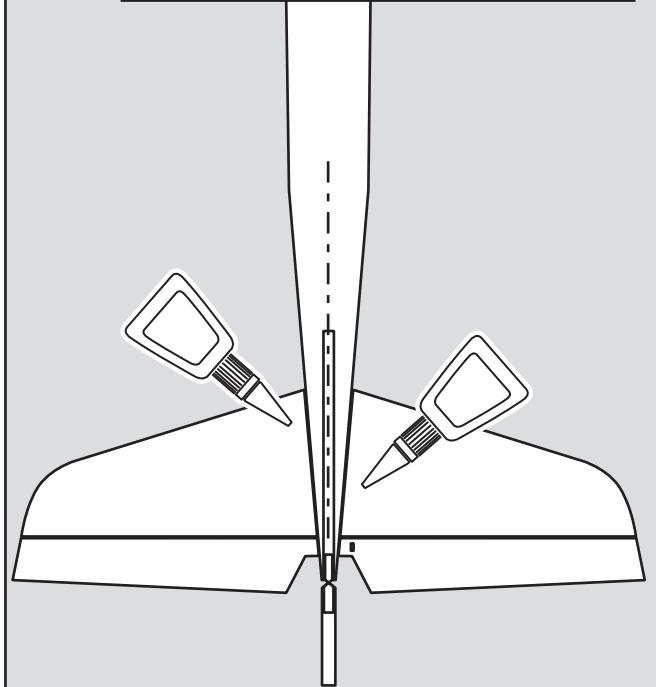
13

●図の長さが左右均等になるようにあわせませす。



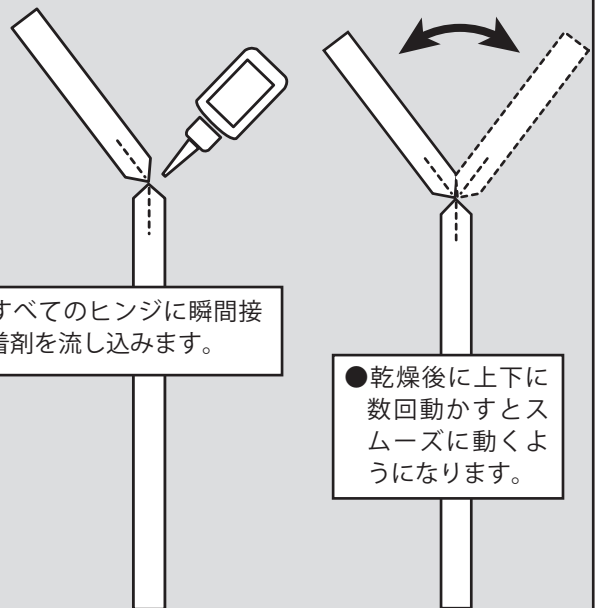
14

●水平尾翼の胴体との接合部に上下から瞬間接着剤を流し込んで接着します。



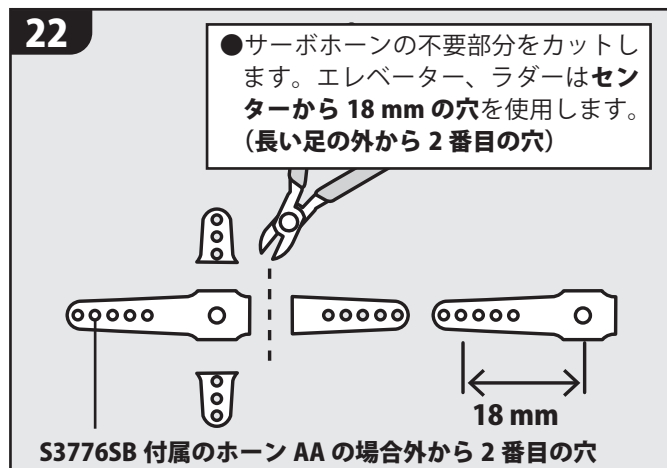
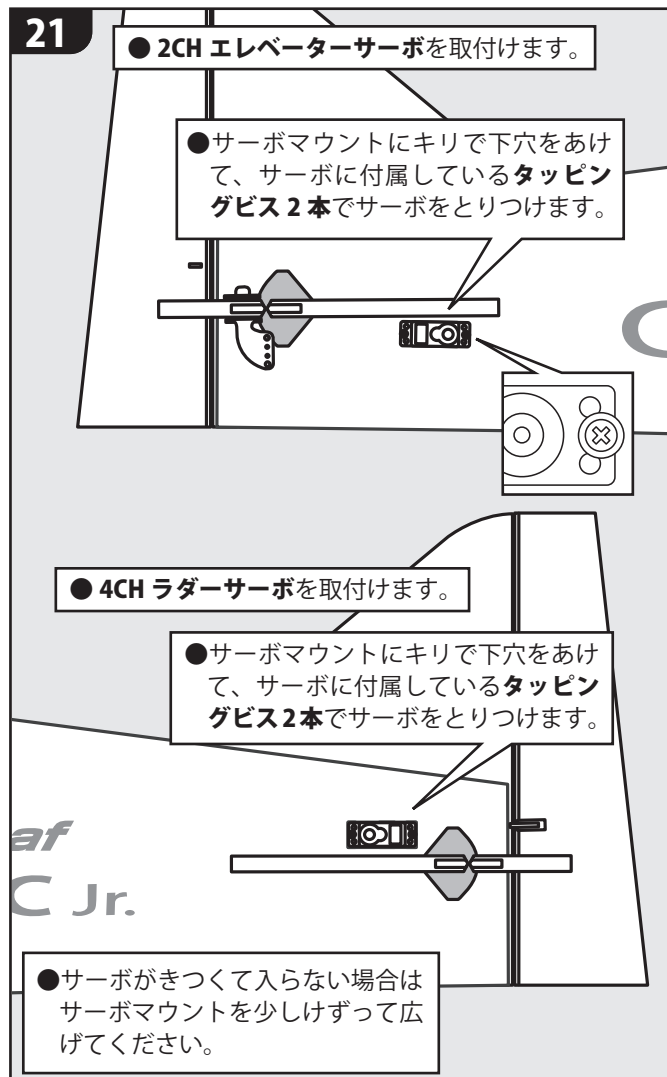
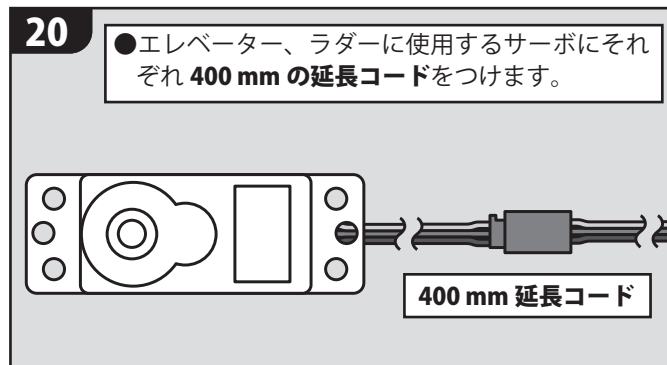
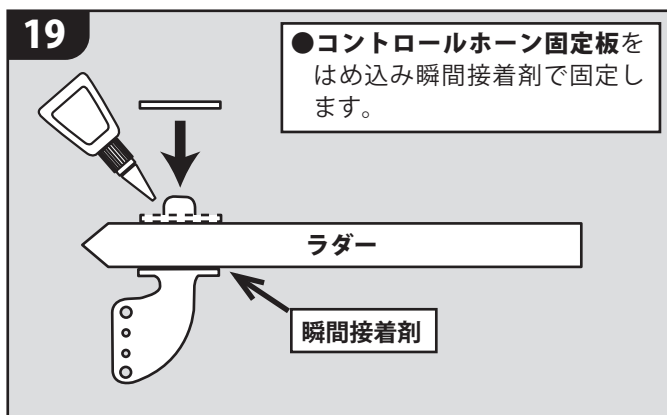
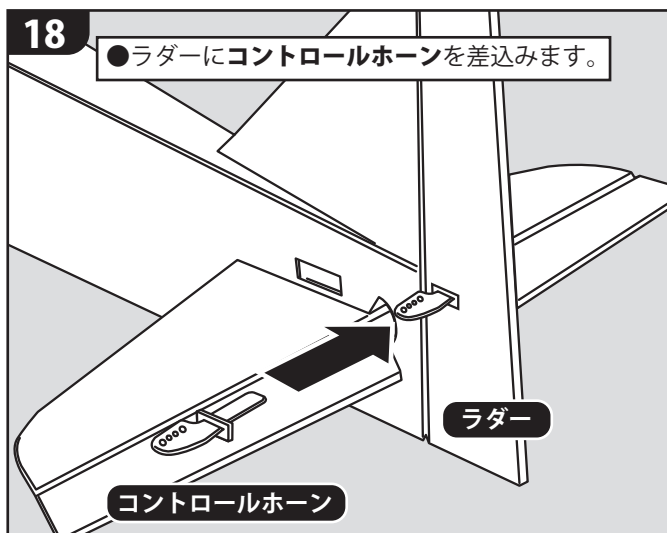
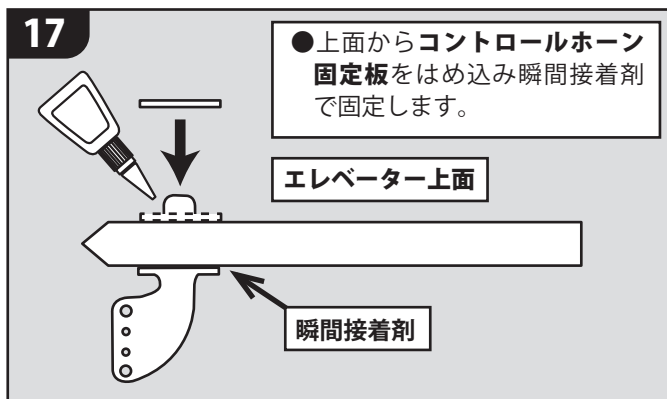
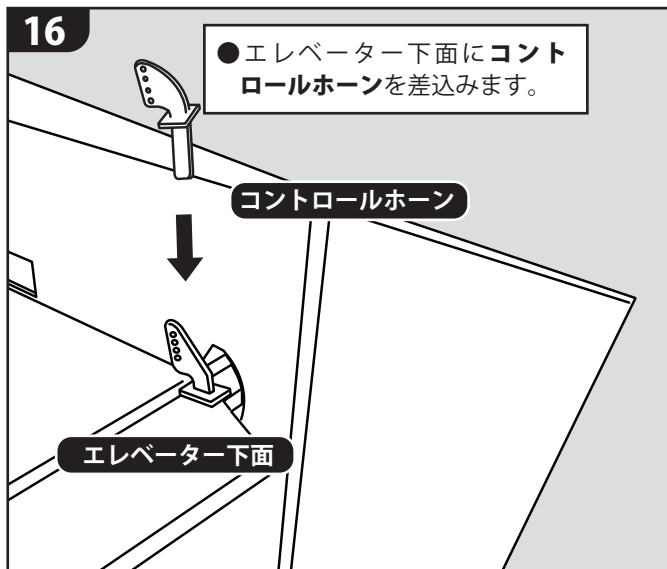
15

●エレベーターのヒンジに瞬間接着剤を流し込んで接着します。



●すべてのヒンジに瞬間接着剤を流し込みます。

●乾燥後に上下に数回動かすとスムーズに動くようになります。



23

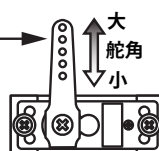
●サーボを受信機につないでプロポの電源をいれニュートラルにします。図のようにリンケージしてサーボのニュートラルでエレベーターがまっすぐになるようにロッドアジャスターで長さを調整してください。

ロッドアジャスターがピッタリ入るまで穴を広げます。
!穴が大きすぎるとガタがでるので注意

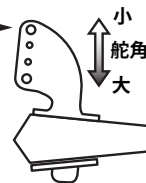
ロッドが長いので余分な部分はペンチなどでカットします。

●フライトスタイルに合わせて調整してください。ただし舵の動く範囲をこえて大きく動かそうとするとサーボに負荷がかかって破損する可能性がありますので注意してください。

推奨位置



推奨位置



ロッドアジャスター

エレベーターロッド

24

●同じ要領でラダーのリンケージを行います。

ロッドが長いので余分な部分はペンチなどでカットします。

ロッドアジャスターの詳細

長さ調整後六角レンチでしめます。

ロッド

ワッシャー

ワッシャー

ナット

コントロールホーン

●ガタつきがなく軽く動くようにナットでクリアランス調整してからネジロックでナットを固定してください。

注! ナットをきつくしめすぎると動きが渋くなるので注意してください。

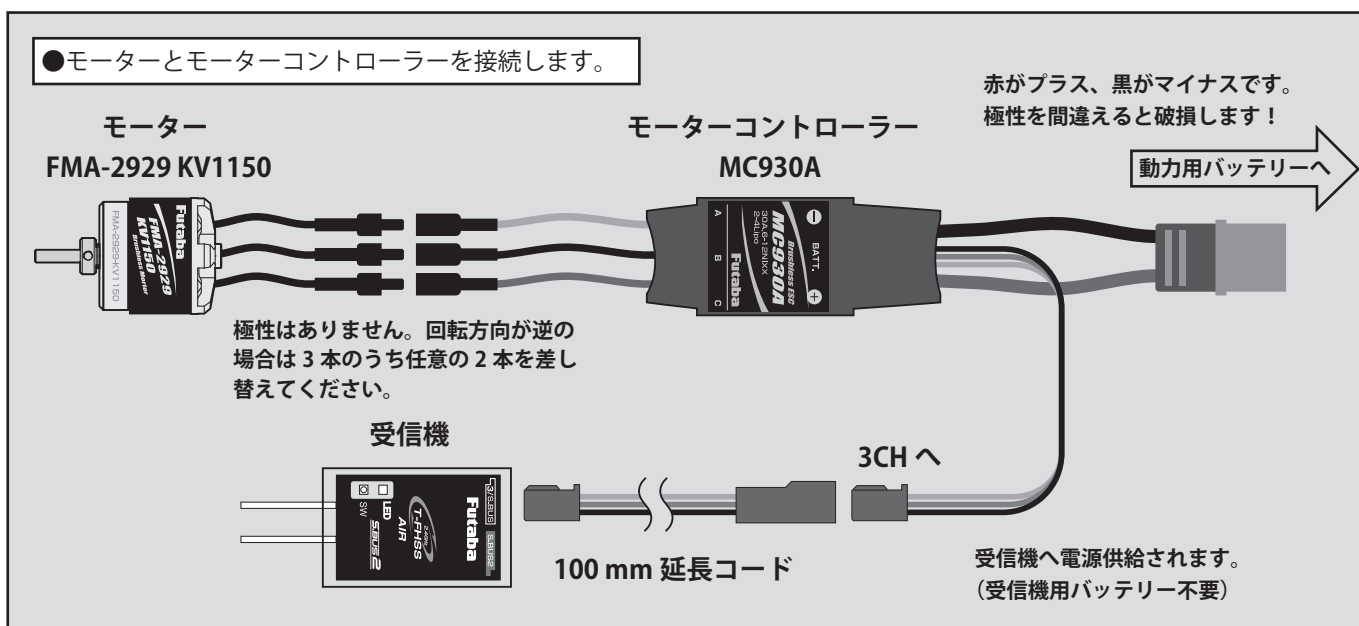
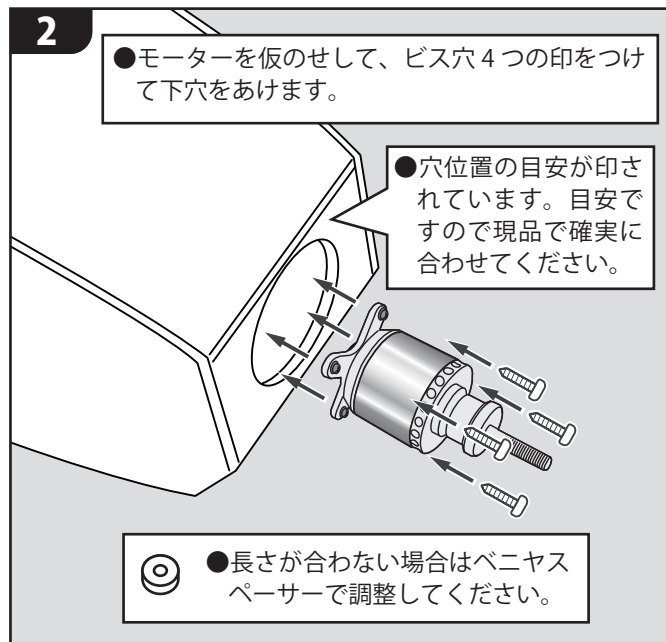
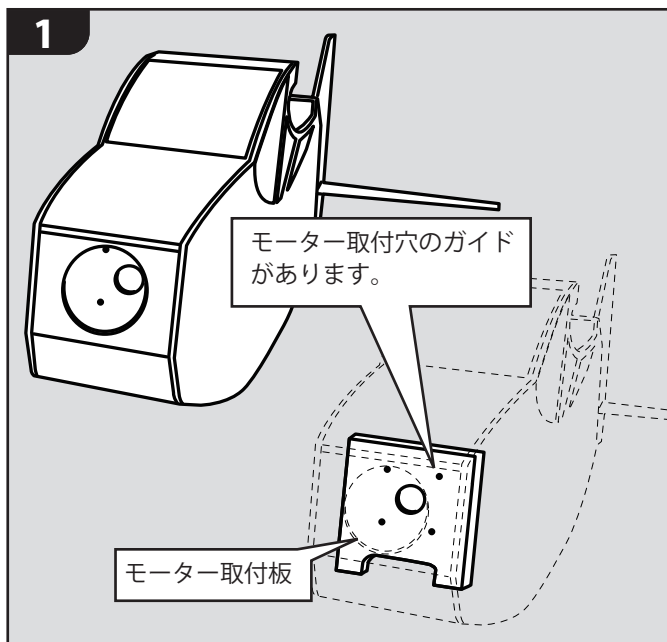
ラダーロッド

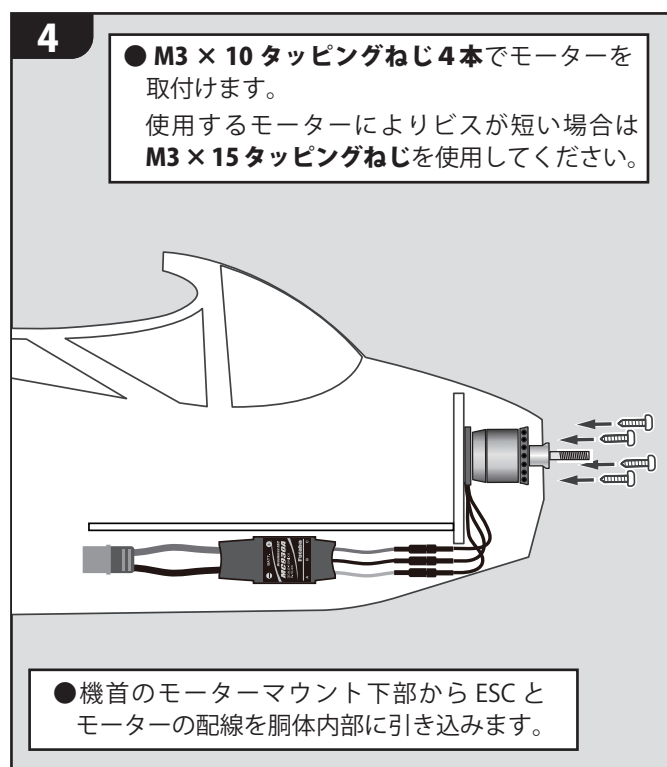
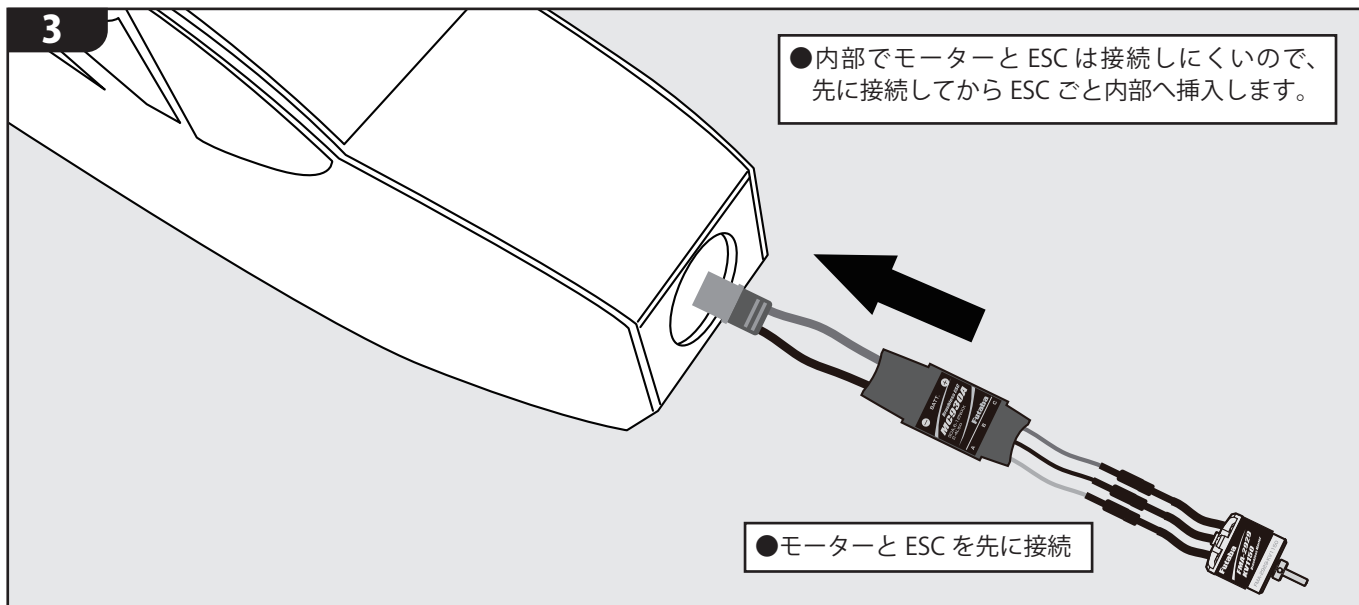
ロッドアジャスター

ロッドアジャスターがピッタリ入るまで穴を広げます。
!穴が大きすぎるとガタがでるので注意

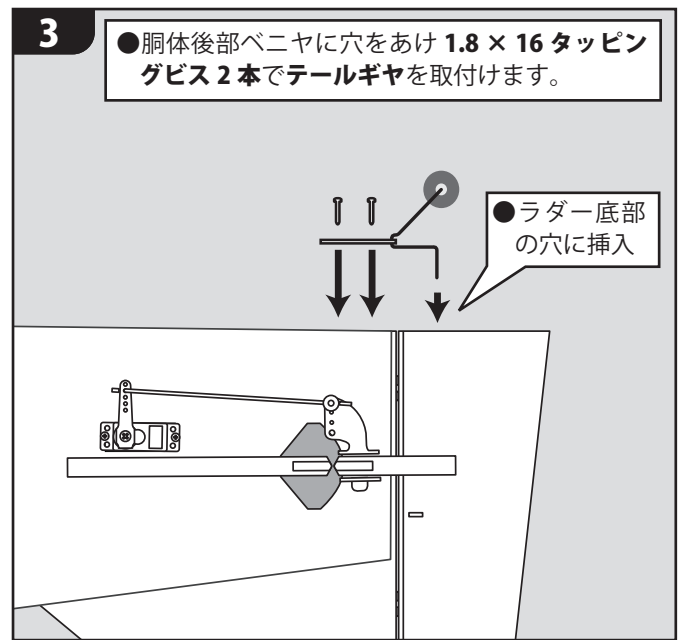
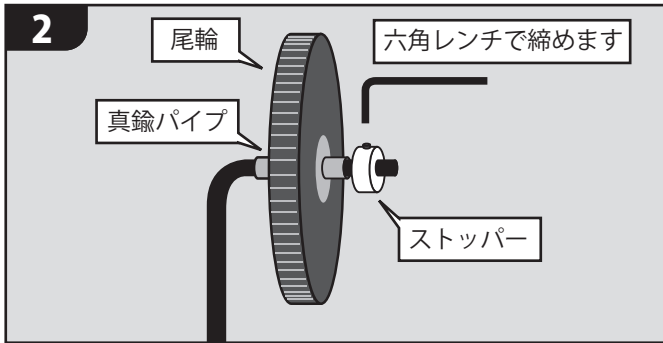
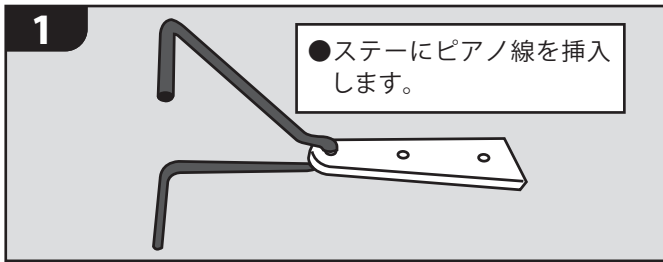
! 舵角が大きいと不意に失速しやすくなるので注意してください。

7 モーターの取付

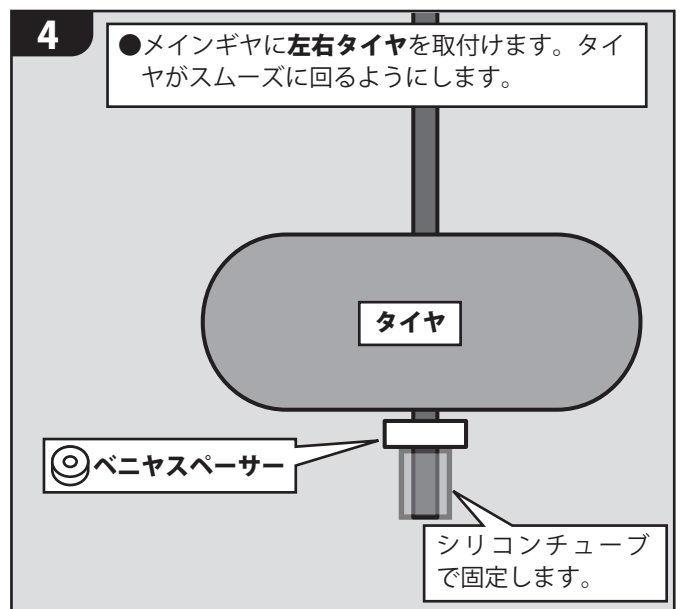
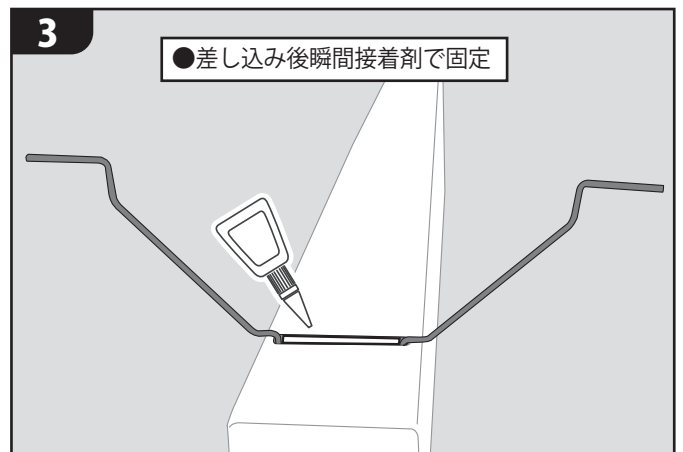
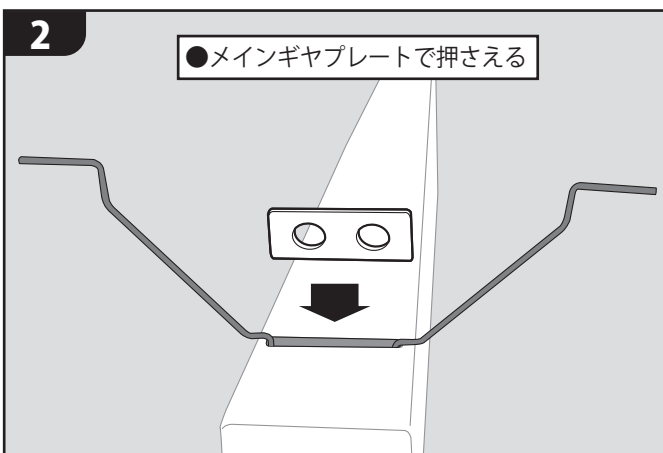
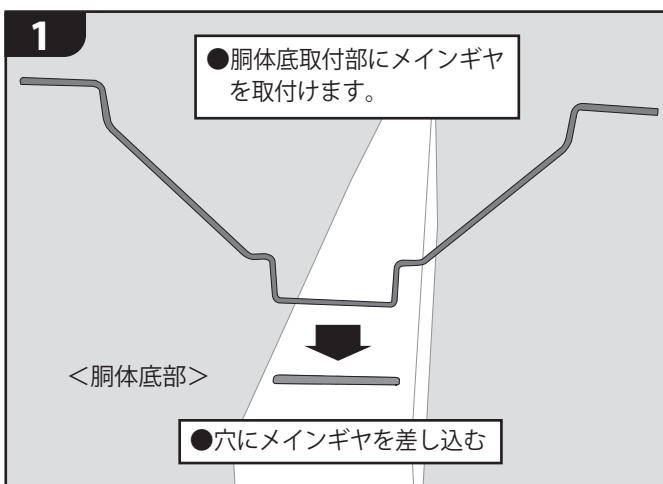




8 テールギヤの取付



9 メインギヤの取付

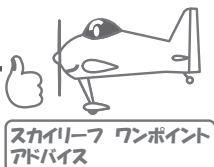
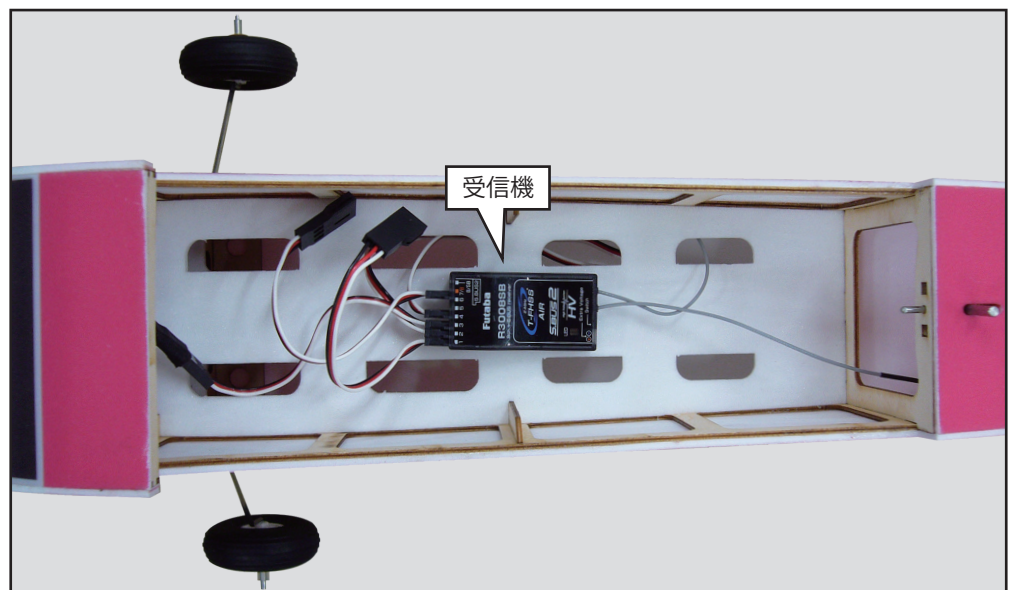
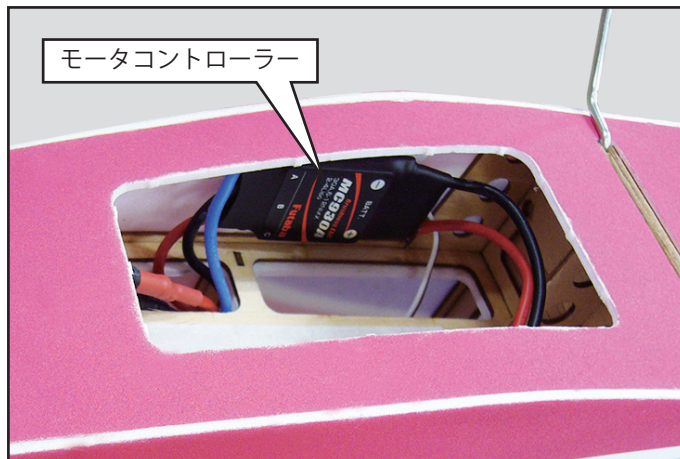
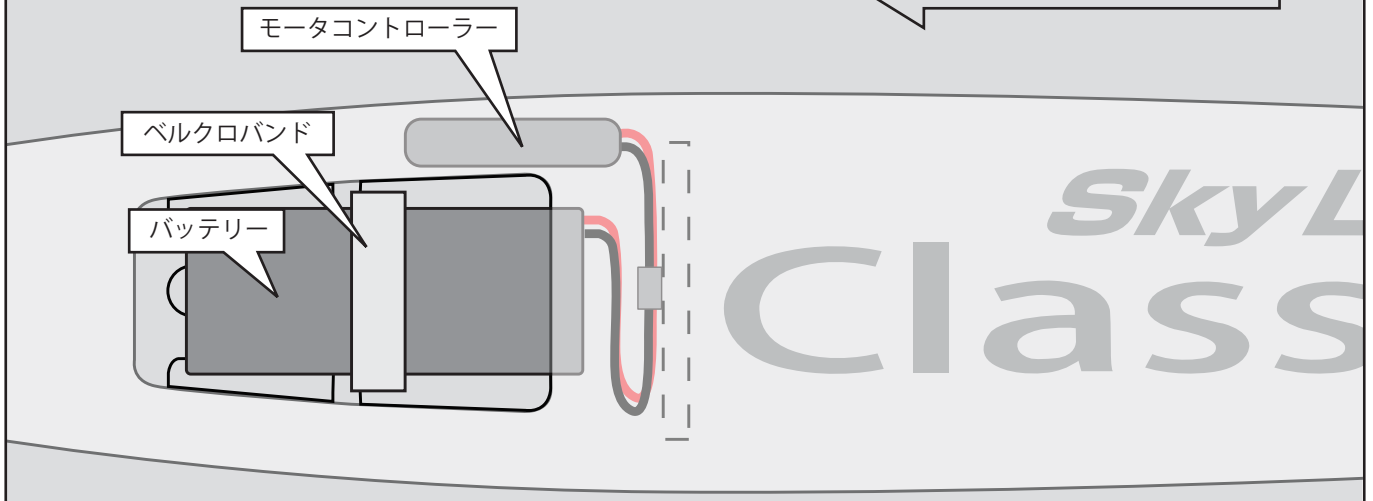


➡10 受信機・モーターコントローラー・バッテリー（別売）の取付

1

●胴体前下内部にバッテリー・ESCを搭載して、受信機と配線接続します。

← 前 <胴体前部を下からみた図>



スカイライフ ワンポイント
アドバイス

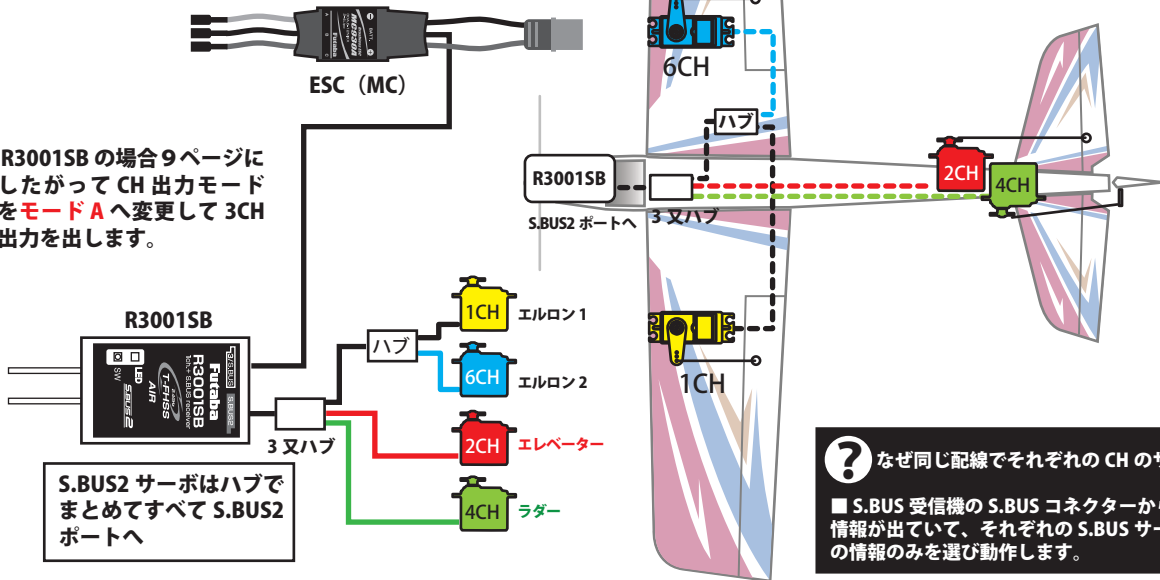
動力バッテリーは使う種類によって重量がちがうので、最後に指定の重心位置になるように、搭載する位置で調整しよう！



送信機によってモーターコントローラーのCHをリバースにしなければならない場合があります。はじめに、プロペラをつけないでモーターをまわして方向を確かめてください。
■不意にプロペラが回転すると大ケガの恐れがあります。

➤11 S.BUS システム配線例 (R3001SB 使用の場合)

- R3001SB の場合 9 ページにしたがって CH 出力モードをモード A へ変更して 3CH 出力を出します。

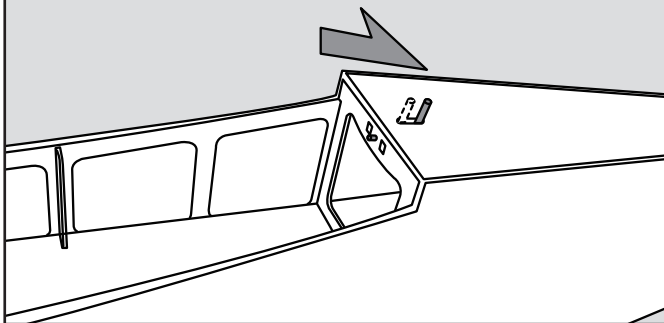


- ❓ なぜ同じ配線でそれぞれの CH のサーボが動くの？
- S.BUS 受信機の S.BUS コネクターからすべての CH の情報が出ていて、それぞれの S.BUS サーボが自分の CH の情報のみを選び動作します。

➤12 主翼の取付

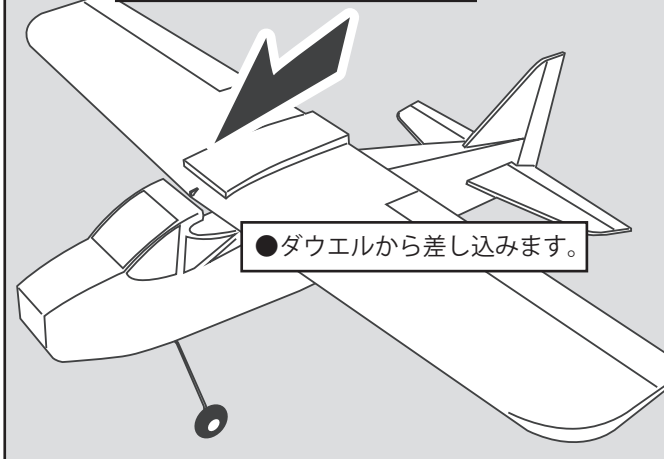
1

- ウイングロックを後ろに押します。



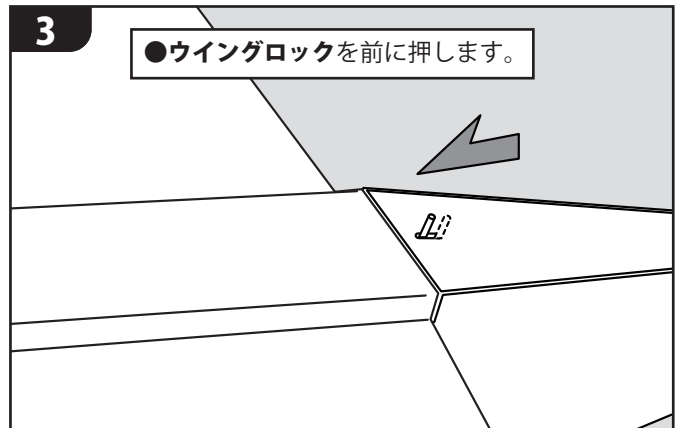
2

- エルロン配線を接続します。



3

- ウイングロックを前に押します。

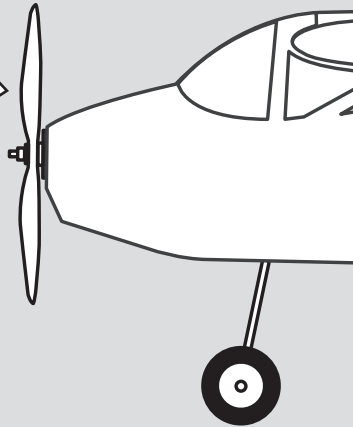


フライトするときは必ずウイングロックをロックしてください。

➤13 プロペラの取付

1

- プロペラ・スピナー（別売）はモーター指定のサイズでシャフトに合うものを選びます。

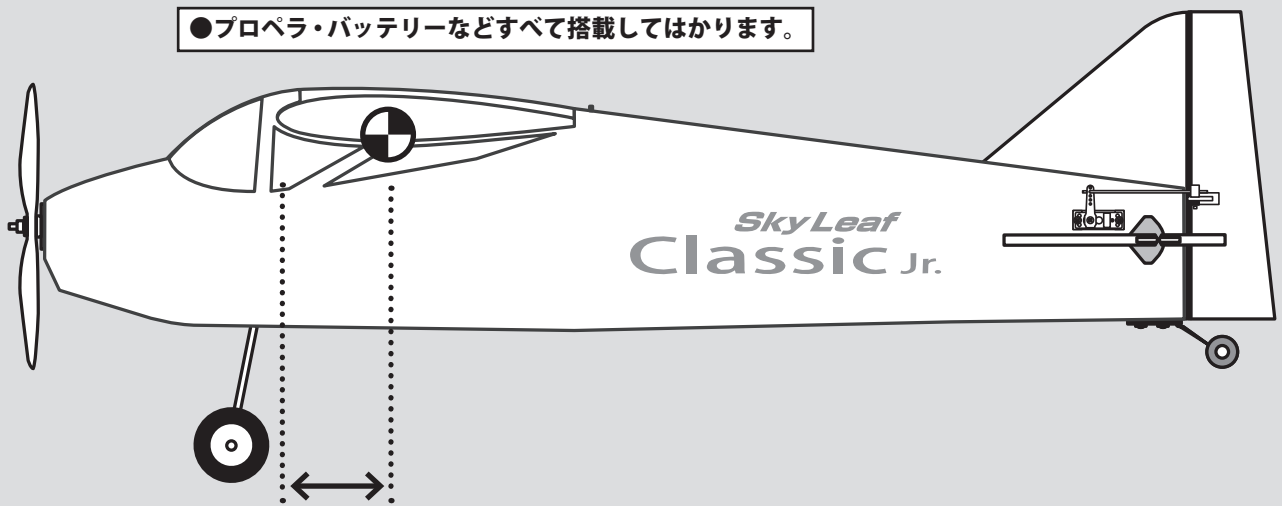


⚠ プロペラの取付は必ず動力用バッテリーを接続しないでください。■不意にプロペラが回転すると大ケガの恐れがあります。

➤14 重心位置をあわせる

これで、組立は完成しました。重心位置は飛行機にとって重要ですので、確実にあわせませす。

- プロペラ・バッテリーなどすべて搭載してはかります。



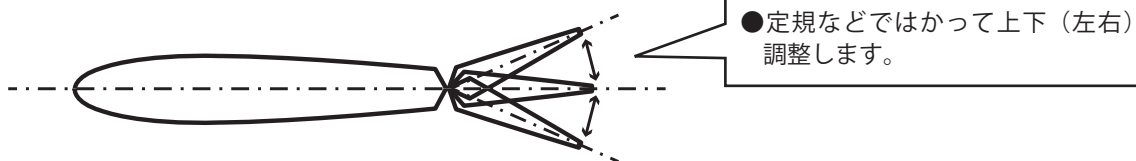
- 主翼根本の前縁から 95 mm ~ 105 mm

⚠ 重心位置が指定外の状態で飛行しないでください。
■操縦不能で墜落する危険性があります。

- かならず指定の範囲内になるように、バッテリー搭載位置を調整したり、オモリなど使うなどして確実にあわせませす。

15 舵角をあわせる

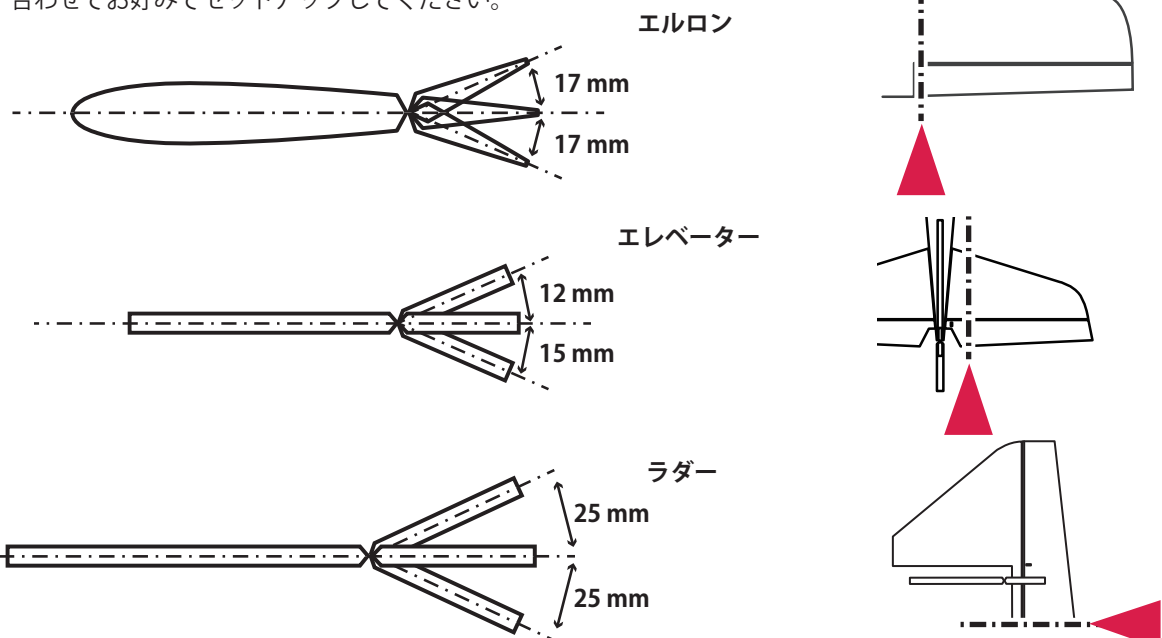
それぞれの舵の方向を確認してプロポのリバース機能であわせます。また、それぞれの舵角を定規などではかって下記の数値になるように、プロポの舵角調整機能（エンドポイント、ATV、EPA）で調整します。



●プロポを最大操作したときに、各舵が動作する範囲をこえてサーボが動作しようとするとうるさくなります。負荷がかかりすぎると、サーボが故障するので、リンクージやプロポの舵角調整（エンドポイント、ATV、EPA）でサーボの動作量を少なく調整してください。

（舵角の参考値）

※目安の参考値です。ご自身のフライトスタイルに合わせてお好みでセットアップしてください。



プロポのデュアルレート (D/R) をつかって、大小2つの舵角を設定すると便利だよ!! 参考にボクの舵角セットを覚えておくれ!! ポイントは大舵角のときはエキスポネンシャル (EXP) のマイナスをふやすこと。大舵角でニュートラル付近が過敏になるのをおさえるのさ!

●通常（小舵角）：	（デュアルレート）	エルロン 50%	エレベーター 50%	ラダー 55%	
	（エキスポネンシャル）	エルロン -20%	エレベーター -15%	ラダー -20%	
●大舵角	：	（デュアルレート）	エルロン 100%	エレベーター 100%	ラダー 120%
		（エキスポネンシャル）	エルロン -40%	エレベーター -40%	ラダー -40%



舵角の数値はすべて参考値です。パイロットの技量・飛行スタイルに合わせてそれぞれ調整してフライトしてください。



はじめは少ない舵角でフライトしてください。
■大舵角は不意の失速で墜落する危険性があります。



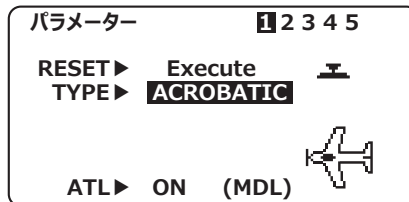
この機体はアクロ機のようなフライトには適してありません。

16 プロポの設定例 (Futaba T10J 使用の例)

基本的なプロポのセットを Futaba T10J を例に説明します。どのような設定にするかの説明ですので、詳しい入力方法はプロポの説明書をご参照ください。他のプロポを使用する場合、プロポの説明書をよく読んで設定してください。特にリバース (サーボの方向) には注意してください。

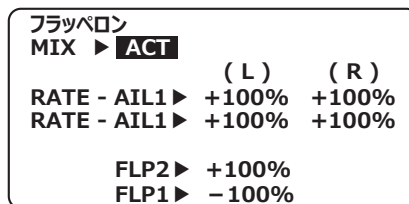
1. モデルタイプ

- ① 飛行機用プロポの場合は初期設定が "ACROBATIC" (飛行機モード) になっているので設定の必要はありません。
- ② ヘリ用プロポや設定が変更されている場合、まず "モデルセレクト" で現在使用していない新規モデルを選んで、名前がわかるように "モデルネーム" で機体名を入力します。
- ③ "パラメーター" のなかの "TYPE" を "ACROBATIC" にします。



2. フラップロン

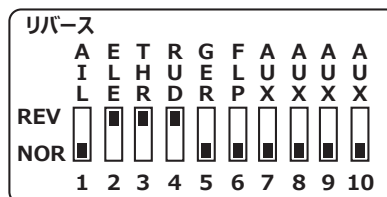
- ① この機体はエルロンが2サーボなので "フラップロン" を使用して左右のエルロンがエルロンスティックで連動するようにします。
- ② "フラップロン" 機能を呼び出し、MIX ▶ INH を ACT にします。
- ③ フラップロン機能の各設定項目の数値は変更しません。これだけで左右のエルロンが同時に動作するようになります。



注！ 16IZ や 32MZ などはフラップロンではなく "モデルタイプ" で主翼タイプを "2 エルロン" に設定します。

3. リバース

- ① 次項の「プロポの操作と舵の動き」をみて、各舵の方向を "リバース" 機能であわせませす。
- ② 通常のリンケージの場合の例を記載します。ただし、リンケージのやりかたや ESC によっても方向は変わりますので、過信せずに、しっかり動作確認してください。



4. D/R, EXPO (デュアルレート、エキスポネンシャル)

- ① D/R で各舵の動作量を下げて、EXP でニュートラル付近の動作をマイルドにして操作しやすくします。
- ② スwitchの切替で動作量と EXP 量を変えることもできますが、当面はswitchの切替ミスを防ぐため、UP, DOWN とともに同じ数値を入力するとよいでしょう。

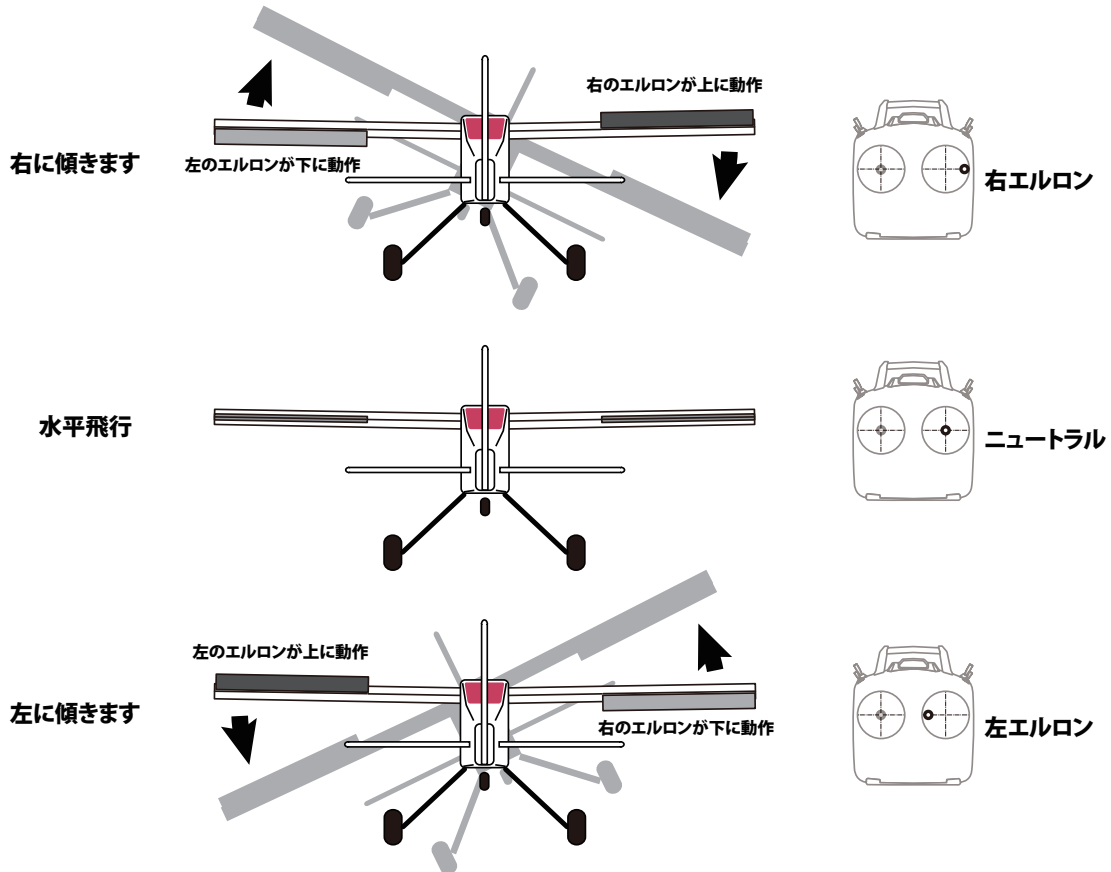
	D/R : UP/DOWN、左/右 (上/下) 共同じ数値	EXP : UP/DOWN、左/右 (上/下) 共同じ数値
エルロン (CH1)	50%	-20%
エレベーター (CH2)	50%	-15%
スロットル (CH3)	—	0%
ラダー (CH4)	55%	-20%

EXP はマイナス値が増えるとニュートラル付近がよりマイルド (鈍感) になります。

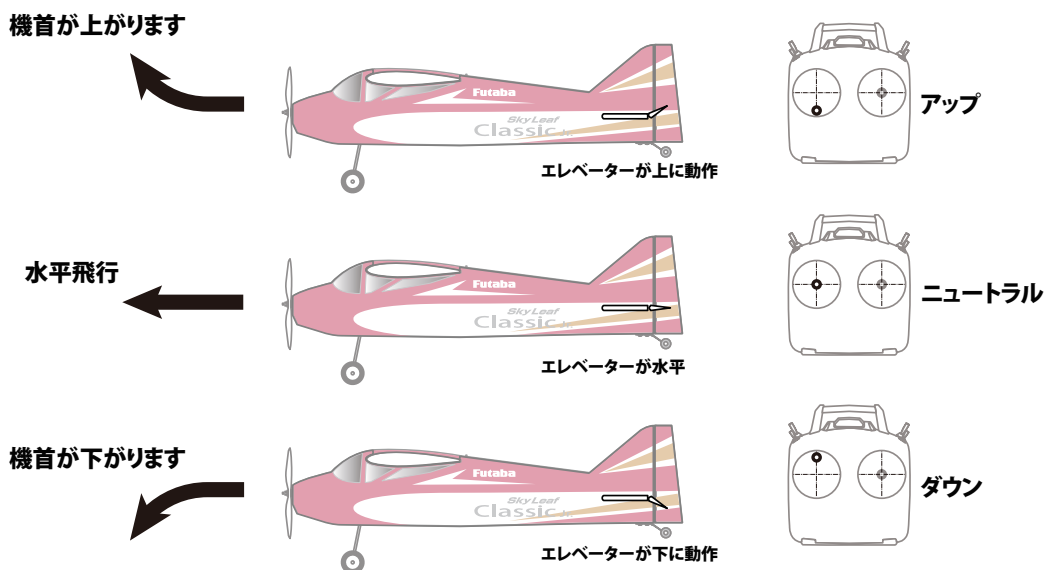
➡17 プロポの操作と舵の動き

エルロンスティックを操作した時のエルロンの動作と機体の動きです。

●それぞれの舵を、図と同じ方向に動くように、プロポのリバース機能を使って調整します。

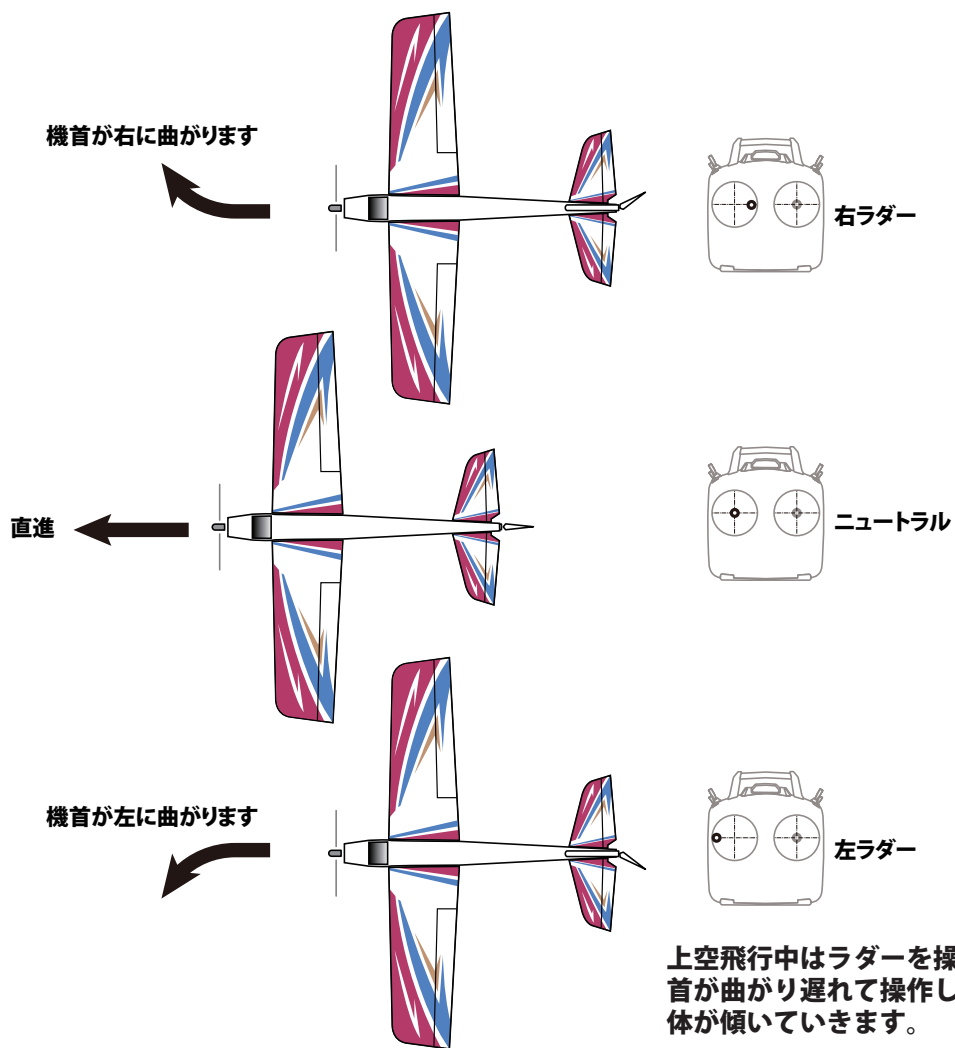


エレベータースティックを操作した時のエレベーターの動作と機体の動きです。

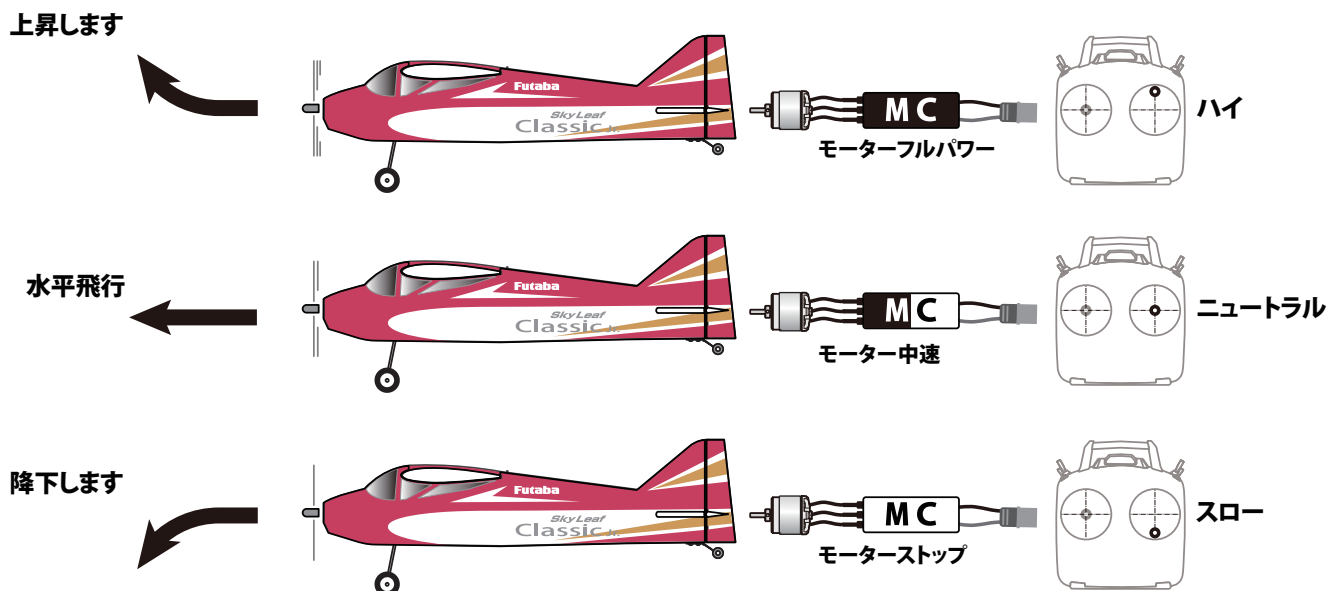


アップ操作で機首があがると機速が遅くなり、ダウン操作で機首がさがると機速が上がります。

ラダースティックを操作した時のラダーの動作と機体の動きです。



スロットルスティックを操作した時のモーターの動作と機体の動きです。



機体名 : スカイリーフ・クラシック・ジュニア
全長 : 940 mm
全幅 : 1,180 mm
主翼面積 : 23.4 d m²
主翼翼厚 : 完全対称 15%
全備重量 : 約 700 ~ 800 g (バッテリー含む)
設計・テストフライト : Futaba フライトスタッフ

S3776SB (S.BUS2 サーボ) :

- スピード
0.11 sec/60° (6.0 V)
- トルク
2.4 kgf・cm (6.0 V)
- サイズ / 重量
21.8 × 11.0 × 21.9 mm / 10.0 g
- 電源
4.8 V ~ 6.0 V (乾電池使用不可)

この製品の修理はおこなっておりません。(付属のサーボは修理可能な場合があります。)



Futaba